インタラクティブ・フラットパネル

ユーザーマニュアル

法的情報

本書について

- 本書には、本製品の使用および管理に関する説明が記載されています。以下に記載されている写真、図表、画像、およびその他すべての情報は、説明および解説のみを目的としています。
- 本書に記載されている情報は、ファームウェアのアップデートやその他の理由により、予告なく変更される場合があります。本書の最新バージョンは、Hikvisionのウェブサイト (***https://www.hikvision.com***) でご確認ください。別段の合意がない限り、Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd. またはその関連会社（以下「Hikvision」といいます）は、明示的または黙示的を問わず、いかなる保証も行いません。
- 本ドキュメントをご利用の際は、本製品のサポートに関する訓練を受けた専門家の指導および支援を受けてください。

本製品について

- 本製品のアフターサービスサポートは、購入された国または地域でのみご利用いただけます。
- お選びいただいた製品がビデオ製品である場合は、以下の QR コードをスキャンして「ビデオ製品の使用に関する取り組み」を入手し、よくお読みください。

知的財産権の承認

- Hikvision は、本書に記載された製品に組み込まれた技術に関連する著作権および/または特許を所有しており、これには第三者から取得したライセンスが含まれる場合があります。
- 本文書の一部（テキスト、画像、グラフィックなどを含む）は、Hikvision に帰属します。書面による許可なく、本文書のいかなる部分も、その全部または一部を、いかなる手段によっても抜粋、複製、翻訳、または改変することはできません。
- HIKVISION およびその他の Hikvision の商標およびロゴは、各法域において Hikvision の所有物です。
- その他、記載されている商標およびロゴは、それぞれの所有者に帰属します。
- HDMI™ HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE 「HDMI」、「HDMI High-Definition Multimediaインターフェース」、

  HDMI トレードドレス、および HDMI ロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。

法的免責事項

- 適用される法律で許容される最大限の範囲において、本書および本書に記載されている製品（そのハードウェア、ソフトウェア、ファームウェアを含む）は、「現状有姿」かつ「すべての欠陥およびエラーを含む」状態で提供されます。 HIKVISIONは、商品性、満足のいく品質、または特定の目的への適合性を含むがこれらに限定されない、明示的または黙示的ないかなる保証も行いません。 本製品の使用は、お客様ご自身の責任において行ってください。いかなる場合においても、HIKVISIONは、事業利益の損失、事業の中断、データの損失、 システムの破損、または文書の紛失による損害を含みますが、これらに限定されません。これらは、契約違反、不法行為（過失を含む）、製造物責任、またはその他の理由に基づくものであるかを問わず、本製品の使用に関連して生じたものであっても、HIKVISIONがそのような損害

または損失について、

- お客様は、インターネットの性質上、固有のセキュリティリスクが存在することを認識し、サイバー攻撃、ハッカー攻撃、 ウイルス感染、またはその他のインターネットセキュリティリスクに起因する異常動作、プライバシーの漏洩、その他の損害について、一切の責任を負わないことを認めるものとします。ただし、必要に応じて、HIKVISIONは適時に技術サポートを提供します。
- お客様は、本製品をすべての適用法令に従って使用することに同意するものとします。また、お客様の使用が適用法令に準拠していることを確保する責任は、お客様のみが負うものとします。 特に、お客様は、パブリシティ権、知的財産権、データ保護およびその他のプライバシー権を含むがこれらに限定されない、第三者の権利を侵害しない方法で本製品を使用する責任を負います。 お客様は、大量破壊兵器の開発または製造、化学兵器または生物兵器の開発または製造、 核爆発物または安全でない核燃料サイクルに関連するいかなる活動、あるいは人権侵害を支援するいかなる活動も含まれます。
- 本文書と適用される法律との間に矛盾が生じた場合は、後者が優先する。

© 杭州海康視界デジタルテクノロジー株式会社。無断転載を禁じます。

はじめに

対象モデル

本マニュアルは、インタラクティブフラットパネルに適用されます。

記号の説明

本書で使用されている記号の定義は以下の通りです。

記号	説明
Note	本文の重要な点を強調または補足するための追加情報を提供します。
Caution	回避しなければ、機器の損傷、データの損失、性能の低下、または予期せぬ結果につながる可能性のある、潜在的に危険な状況を示します。
Danger	回避しなければ、死亡または重傷につながる可能性のある、リスクの高い危険を示しています。そのレベルの危険は、回避しないと死亡または重傷につながる可能性があります。

本マニュアルに記載されているすべての製品は、「Product Security Redline V4」に基づいて開発されています。

目次

第 1 章 はじめに **1**
第 2 章 操作および保守上の注意事項 **2**
2.1 電源ケーブルの使用について 2
2.2 清掃および保守 3
第3章 接続と設置 **4**
3.1 設置上の注意事項 4
3.2 外観とインターフェース 4
3.2.1 前面パネルとインターフェース 4
3.2.2 パーソナルコンピュータ（PC）への接続 8
3.3 コンピュータへの内蔵設置 10
3.4 取り付け 13
第4章 起動とシャットダウン **16**
4.1 デバイスの起動 16
4.1.1 コンピュータ本体なしで設置する場合 16
4.1.2 コンピュータボックスを使用しての設置 16
4.2 スタンバイモード 16
4.2.1 ネットワーク接続時のスタンバイモード 16
4.2.2 通常スタンバイモード 16
4.3 シャットダウン 17
第5章 メニュー操作 **18**
5.1 基本操作 18
5.2 システムバー 19
5.3 入力ソース 20
5.4 ネットワーク 20
5.5 コントロールメニュー 20
5.5.1 注釈 22
5.5.2 スクリーンショット 24
5.5.3 投票機 24
5.5.4 ランダム選択 26
5.6 カメラ機能 28
5.6.1 カメラ 28
5.6.2 ビデオ 28
5.6.3 設定 29
第6章 システム設定 **30**
6.1 ネットワーク設定 30
6.1.1 有線ネットワーク設定 30
6.1.2 無線ネットワーク設定 31
6.1.3 WLANホットスポットの設定 32
6.2 ディスプレイ設定 33
6.3 オーディオ設定 34
6.4 言語と入力設定 35
6.5 日付と時刻の設定 35
6.6 アプリケーションの管理 36
6.7 Bluetooth 37
6.8 補助機能 37
6.8.1 サイドバー 37

6.8.2 温度制御 38
6.8.3 物理ボタンの設定 38
6.9 詳細設定 39
6.10 ユーザー設定 41
6.11 デバイス情報 43
6.12 ネガティブ画面 43
第7章 インテリジェント・アプリケーション 45
7.1 FileBrowser 45
7.1.1 ローカルストレージ 45
7.1.2 クラウドストレージ 46
7.2 ブラウザ 47
7.3 ホワイトボード 47
7.3.1 ツールバーの基本操作 47
7.3.2 その他のツール 49
7.3.3 ホワイトボードの管理 56
7.3.4 ホワイトボードを保存 57
7.3.5 ホワイトボードの共有 57
7.3.6 その他の機能 58
7.4 WonderCastServer 60
7.5 WonderSeminar 61
7.5.1 放送および通話画面 62
7.5.2 グループ比較 64
7.5.3 権限制御 65
7.5.4 その他の操作 65
7.6 システムにプリインストールされているアプリケーション 66
第8章 付録A よくある質問 68

第1章 はじめに

インタラクティブフラットパネル（以下、「本デバイス」といいます）は、コンピュータ、プロジェクター、インタラクティブホワイトボード、スピーカー、広告機などの機能を一体型で搭載したものです。本デバイスは、4Kディスプレイ、赤外線タッチ、人間と機械の相互作用、マルチメディア情報処理、ネットワーク伝送などの複数の技術を搭載しており、書き込み、注釈、マルチスクリーン共有、リモートビデオ通話（オプション）などのさまざまな機能をユーザーに提供します。

本デバイスは、主にオフィス、会議室、マルチメディア教室、展示ホールなどの場所で、遠隔ビデオインタラクティブ、研修や指導、医療相談などのイベントに使用されます。

主な特長

- 最大 3840 × 2160 の解像度を持つ Ultra HD ディスプレイに対応しています。
- 20px の超微細な書き込みが可能で、直径 2 mm の文字も 1 mm の精度で認識します。
- USB 3.0 に対応しています。
- Wi-Fi を内蔵しており、ケーブル接続なしで画面ミラーリングが可能です。
- インタラクティブホワイトボードシステムを内蔵しており、QRコードによる注釈の追加や共有が可能です。
- ループアウト表示に対応しています。
- デバイスへのアクセス用のさまざまなオーディオおよびビデオインターフェース。
- 内蔵のネットワークスイッチモジュールにより、ネットワークスイッチが不要になります。
- Androidシステムが内蔵されており、様々なアプリケーションを利用できます。
- OPS/OPS-Cデバイスに対応しており、内蔵システム間のスムーズな切り替えを実現します。
- アルミニウムプロファイルフレームを採用した超薄型デザイン。

第2章 操作とメンテナンス

注意事項

本装置の LCD パネルは、高精度な技術によって製造されています。ただし、画面上に常に点灯している、あるいはまったく点灯しない微細なスポットが見られる場合や、横から見たときに色や
明るさにムラが見られる場合があります。しかし、上記の現象は故障ではなく、LCD ディスプレイでは一般的なものであり、本機の性能には影響しません。

- 本装置の操作中に第三者によって引き起こされた不具合、およびその他の故障や損害について、当社は一切の責任を負いません。
- 火災や損傷の危険を避けるため、ほこりや高湿度、あるいは油や蒸気が付着する環境では本機器を使用しないでください
。
- 直射日光の当たる場所や、強い光源の近くには本機器を置かないでください。
- 強い放射線を放出する他の機器の近くに本機を置かないでください。
- 本製品を雨や湿気の多い環境にさらさないでください。
- 本機器を不安定または危険な場所に置かないでください。強い衝撃、振動、揺れを避けてください。
- 火災の危険を避けるため、加熱装置や高温の場所の近くで本機器を操作しないでください。
- 低温環境から高温環境へ本機を移動させた後は
、すぐに電源を入れず、結露が蒸発するまで待ってください。
- 本機に異物を挿入しないでください。
- 本製品の上に重い物を置かないでください。
- 本機およびアクセサリーは、予告なく変更される場合があります。
- ディスプレイの材質は壊れやすいため、落下や衝撃に弱いです。取り扱いには十分ご注意ください。
- デバッグや操作中の不適切な操作は、本機の損傷につながる恐れがあります。
- 本体を硬い物で引っかいたり、叩いたりすることは固く禁じられています。損傷や故障のリスクを避けるため、操作中は本体の電源を頻繁にオン/オフしないでください。
- 本機から煙、異臭、異音がした場合は、直ちに電源を切り、電源ケーブルを抜いてから、サービスセンターにご連絡ください。

2.1 電源ケーブルの使用

- 電源ケーブルが損傷または故障している場合は、サービスセンターにご連絡ください。電源が適切に接地されており、筐体の銘板に記載されている要件に合致していることを確認してください。
- 本機を雨や湿気の多い環境にさらさないでください。雷雨の際は、電源プラグとアンテナを取り外してください。

- 本機を長期間使用しない場合は、本機の電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。
- 電源を切った後、短時間ですが放電が続く場合があります。電源を切ってから2分間待ってから、本機を操作してください。
- 本製品には、同梱の純正電源ケーブルのみを使用してください。同じ仕様の電源ケーブルを購入するには、正規販売店にお問い合わせください。
- 電源が確実に接地されていることを確認してください。
- 電源プラグやコンセントに、ほこりや金属片が付着しないようにしてください。
- ケーブルをいかなる形でも改造しないでください。
- ケーブルの上に重い物を置かないでください。
- ケーブルを熱源から遠ざけてください。
- ケーブルを引っ張って電源プラグを抜かないでください。
- 電源ケーブルを物理的または機械的な損傷から遠ざけてください。
- このケーブルは、インタラクティブディスプレイにのみ使用可能です。他の機器には使用しないでください。

2.2 清掃およびメンテナンス

- 背面カバーの穴は放熱用です。背面カバーに液体を注いだりスプレーしたり、濡れた布で拭いたりしないでください。
- クリーニングを行う前に、電源プラグを抜いてください。
- 画面に高輝度の画像を長時間表示しないでください。
- 本体の清掃には、乾いた、柔らかく、ほこりのない布を使用してください。
- 内部のクリーニングについては、サービスセンターにお問い合わせください。
- 適切なメンテナンスを行うことで、初期段階の故障を回避することができます。
- 本体を定期的に清掃し、新品同様の状態を保ってください。
- 水、スプレー式クリーナー、工業用化学薬品を使用して本機を清掃しないでください。本機への異物の侵入を防いでください。
- 本機の内部のクリーニングについては、認定サービス担当者にご連絡ください。本機に損傷がある場合は、弊社にご連絡ください。無断で修理を行わないでください。

第 3 章 接続と設置

3.1 設置上の注意事項

- 最高の性能を発揮させるため、設置前に本体の画面と背面を清掃してください。
- 安全のため、メーカーが提供するウォールマウントまたは台座のみを使用してください。
- ウォールマウントについては、専門スタッフにご依頼ください。
- 設置前にアクセサリーを確認してください。不足しているものがあれば、販売店にご連絡ください。
- 本体をきつく締めすぎないでください。締めすぎると、画面が歪む恐れがあります。
- 本機は耐力壁に取り付けてください。
- 本機を安定した場所に置くか、壁にしっかりと固定してください。
- 電源接続を容易にするため、本機は利用可能な AC 電源コンセントの近くに設置してください。信号干渉を防ぐため、他の機器と同じアースケーブルを使用してください。
- 本機を機械的な振動源の近くに置かないでください。
- 本機を、虫が侵入しやすい環境に設置しないでください。
- 結露を防ぐため、本機をエアコンの吹き出し口に直接向けないでください。
- 無線干渉を防ぐため、強い電磁界の中に本機を置かないでください。

3.2 外観とインターフェース

3.2.1 Front Panel and Interfaces

インタラクティブ・フラットパネルのインターフェースは以下の通りです。

Note

- デバイスのインターフェースは機種によって異なります。
- 以下の説明は、画面を正面から見た方向を基準としています。

65インチ（カメラ付き）

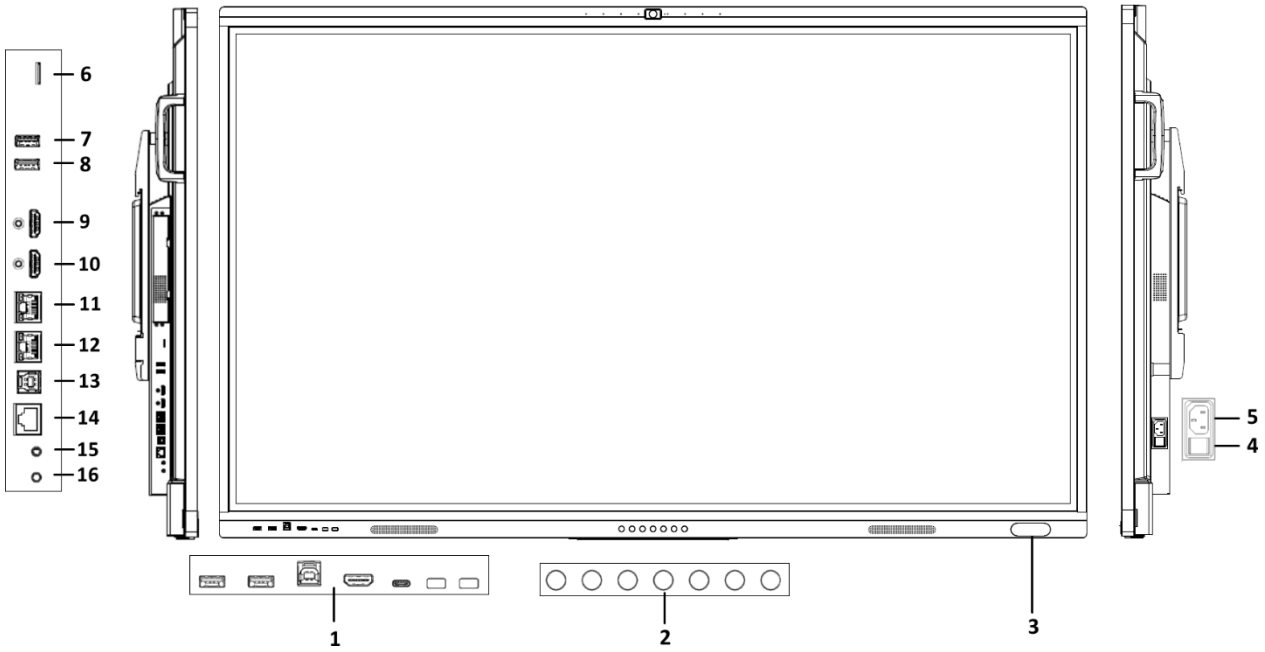


Figure 3-1 フロントパネルとインターフェース（65インチ、カメラ付き）

65インチ（カメラなし）

Figure 3-2 前面パネルとインターフェース（65インチ、カメラなし）

75インチ（カメラ付き）

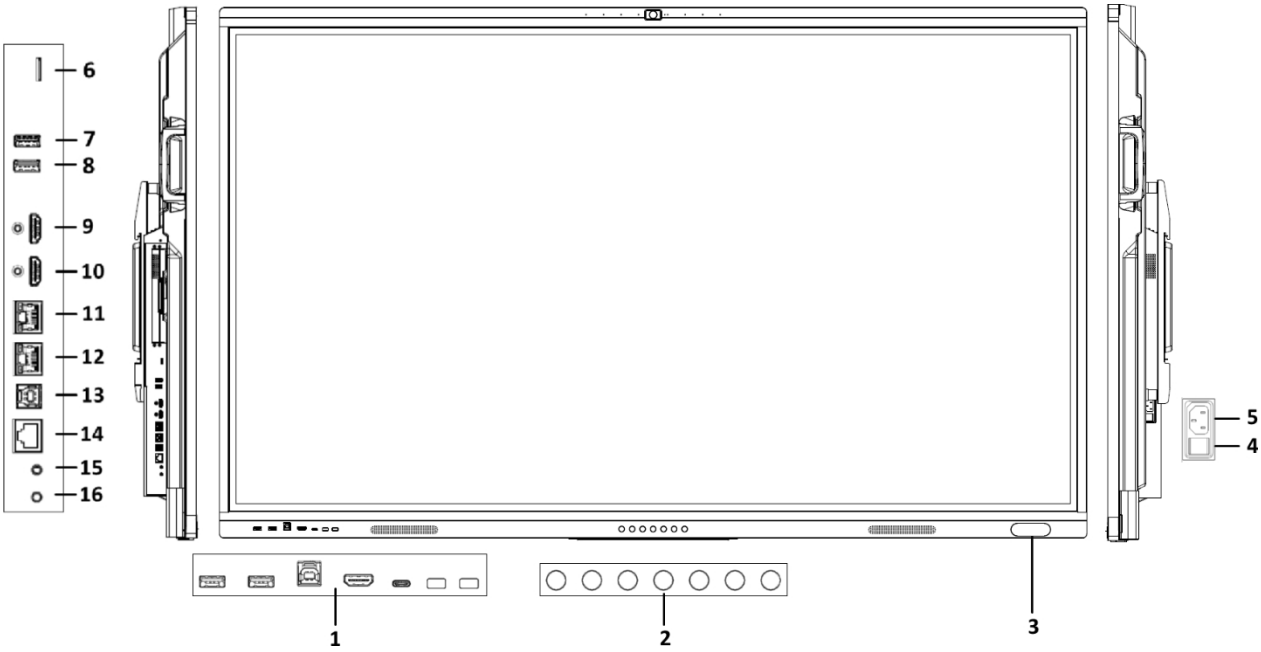


Figure 3-3 フロントパネルとインターフェース（75インチ、カメラ付き）

75インチ（カメラなし）

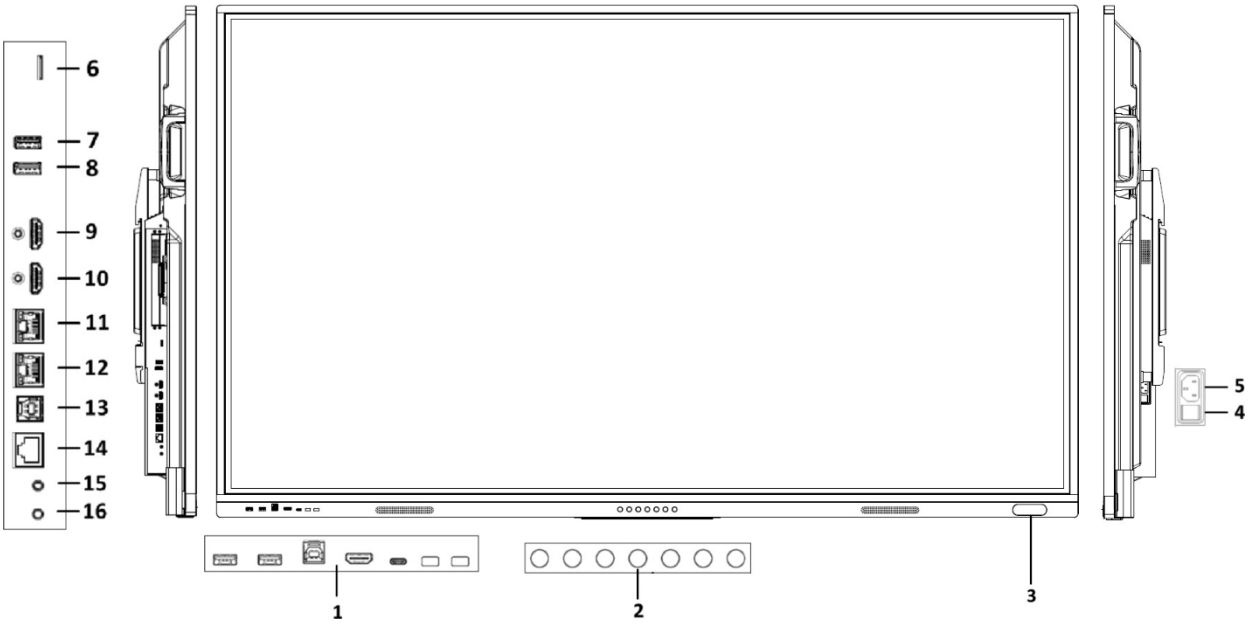


Figure 3-4 フロントパネルとインターフェース（75インチ、カメラなし）

86インチ（カメラ付き）

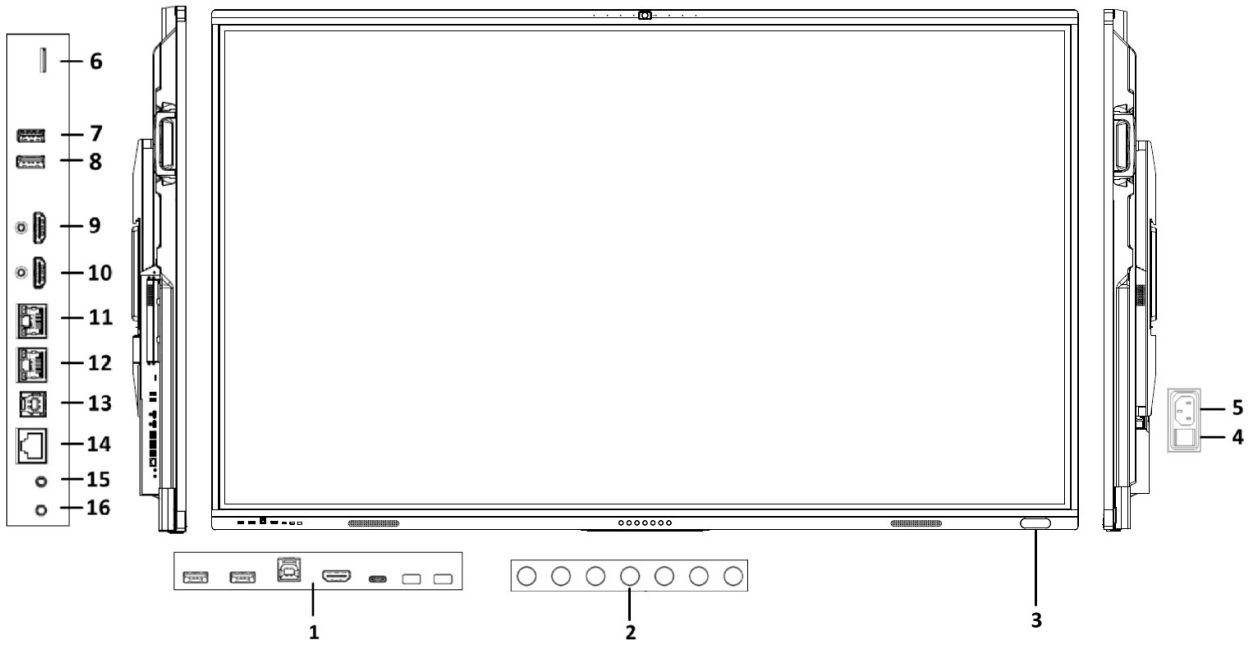


Figure 3-5 フロントパネルとインターフェース（86インチ、カメラ付き）

86インチ（カメラなし）

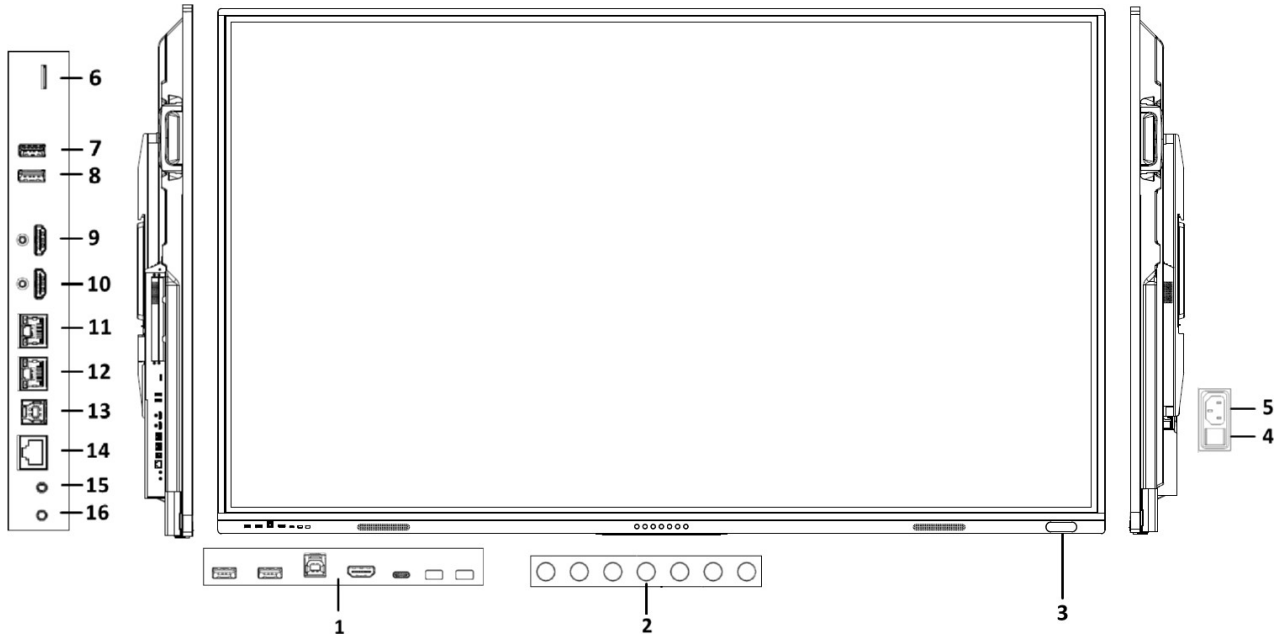


Figure 3-6 フロントパネルとインターフェース（86インチ、カメラなし）

Table 3-1 パネルの説明

No.	説明	No.	説明
1 (左から左から右へ)	USB 3.0 USB 3.0 USBタッチ HDMI IN Type-C 光センサ ー IR	2	電源キー 音量－ 音量＋ Androidホストメニュー 戻る コントロール メニュー 物理ボタン（操作方法については「*6.8.3 物理ボタンの設定*」を参照）
3	NFC	4	電源スイッチ
5	電源 AC 220 V	6	SDカード
7	USB 3.0	8	USB 2.0
9/10	HDMI入力	11/12	ギガビット・イーサネット
13	USBタッチ	14	RS232
15	ライン入力（オーディオ入力インターフェース）	16	ライン出力（オーディオ出力インターフェース）

3.2.2 Connection to Personal Computer (PC)

PCと本機の接続は以下の通りです。

Caution

取り付けや分解を行う際は、必ず本機の電源を切ってください。

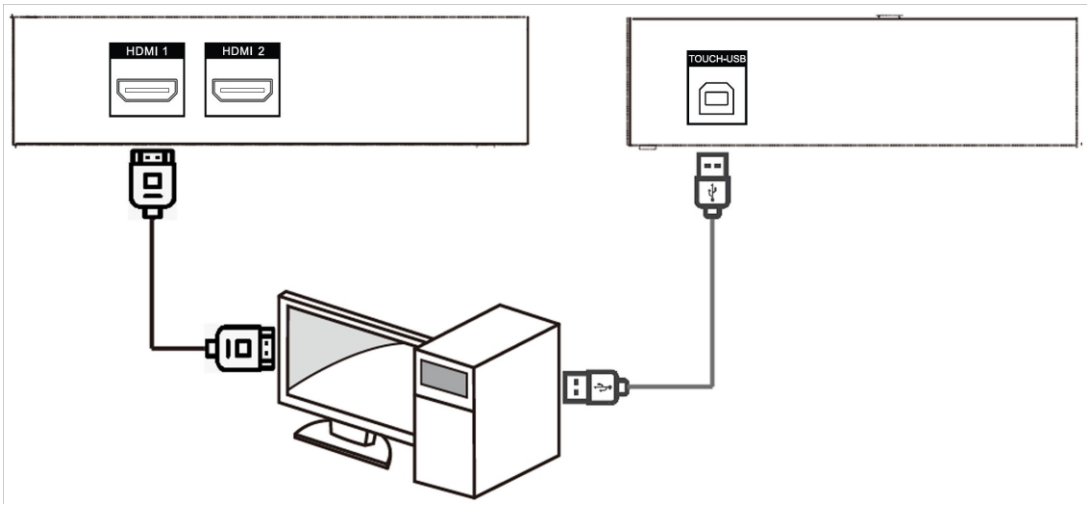


Figure 3-7 PCに接続する

Note

- Touch-USBインターフェースは、ユーザーが本デバイス上で外部PCをタッチ操作する必要がある場合にのみ必要です。
- HDMI信号の伝送品質を高く保つため、長さが10メートル未満の高品質な信号ケーブルをご使用ください。
- USBケーブルは本製品には同梱されていません。Type-AコネクタからType-BコネクタへのUSBケーブルをご購入ください。

3.3内蔵コンピュータの設置

65インチ（カメラ付き）

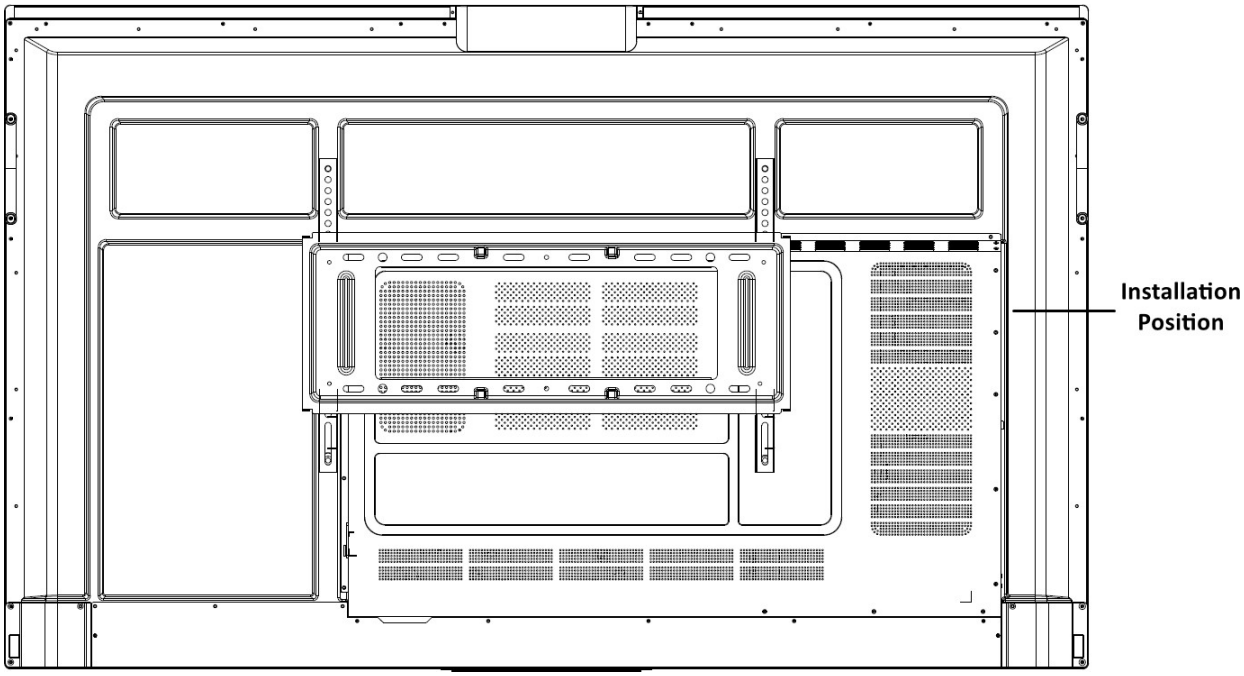


Figure 3-8内蔵コンピュータ設置（65インチ、カメラ付き）

65インチ（カメラなし）

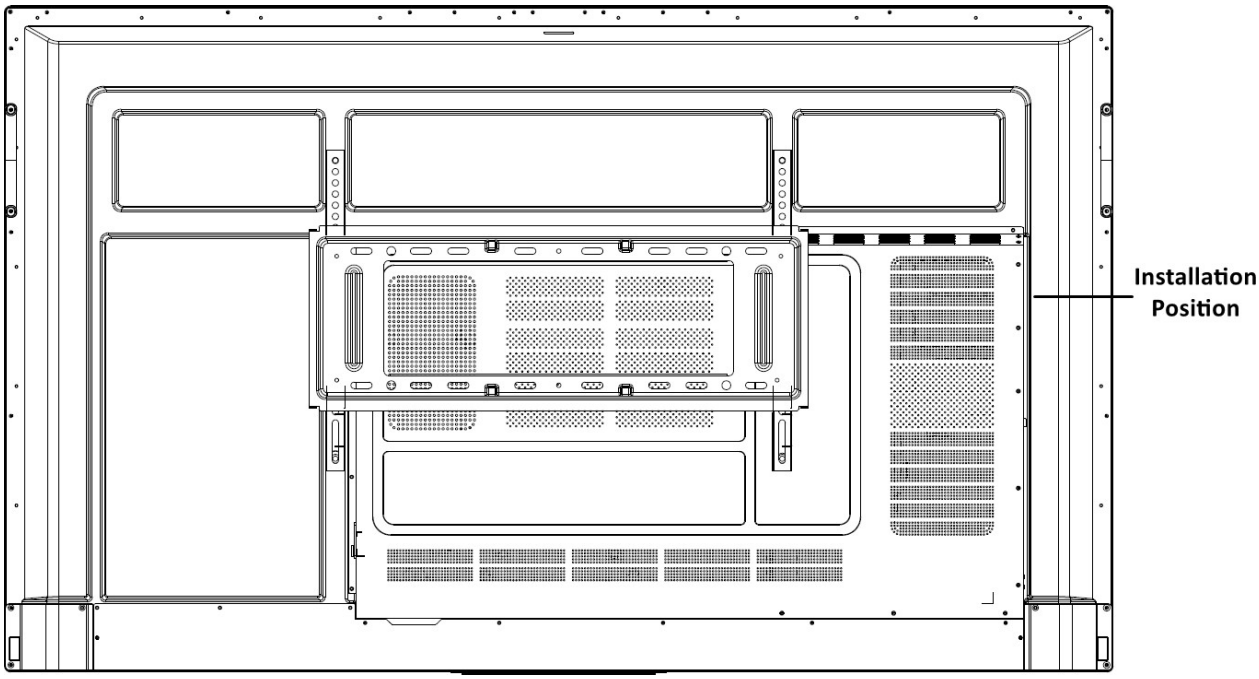


Figure 3-9内蔵コンピュータ設置（65インチ、カメラなし）

75インチ（カメラ付き）

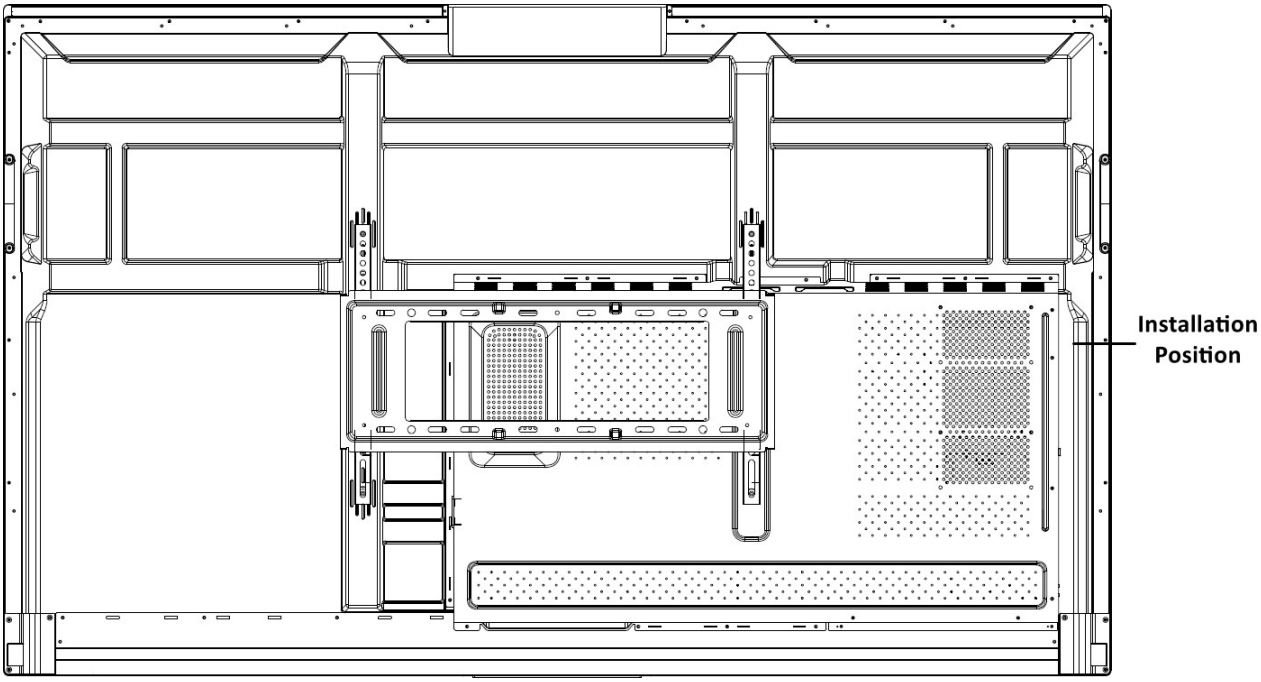


Figure 3-10 内蔵コンピュータ設置（75インチ、カメラ付き）

75インチ（カメラなし）

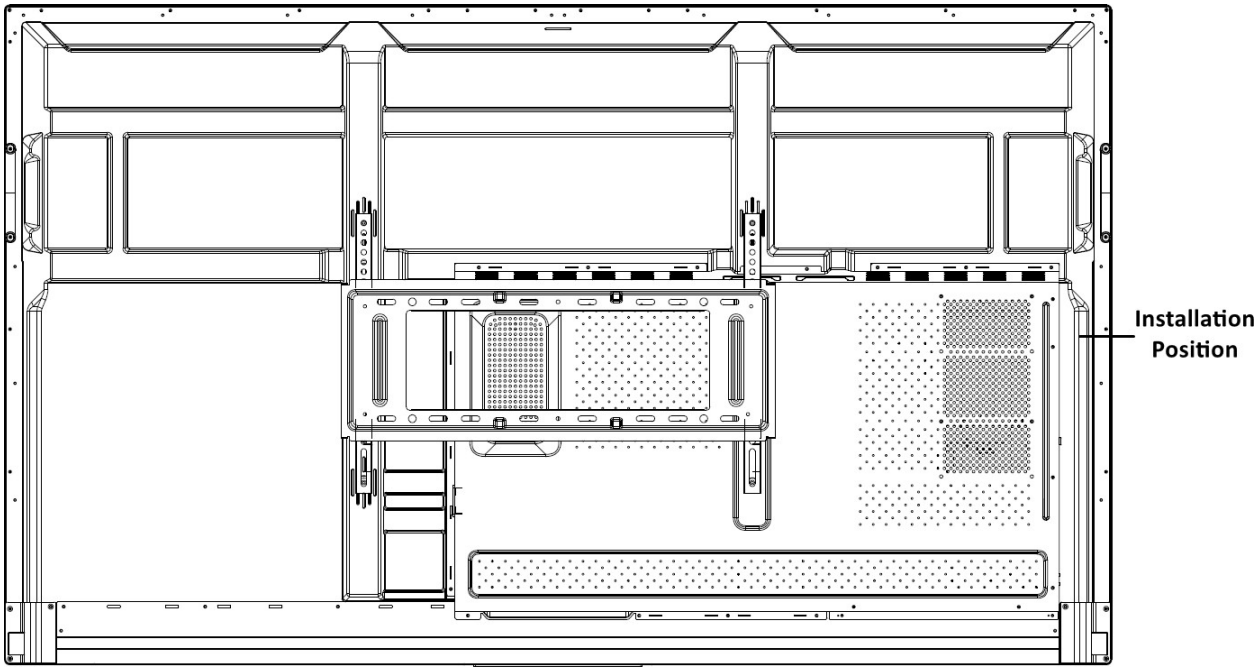


Figure 3-11 内蔵コンピュータ搭載モデル（75インチ、カメラなし）

86インチ（カメラ付き）

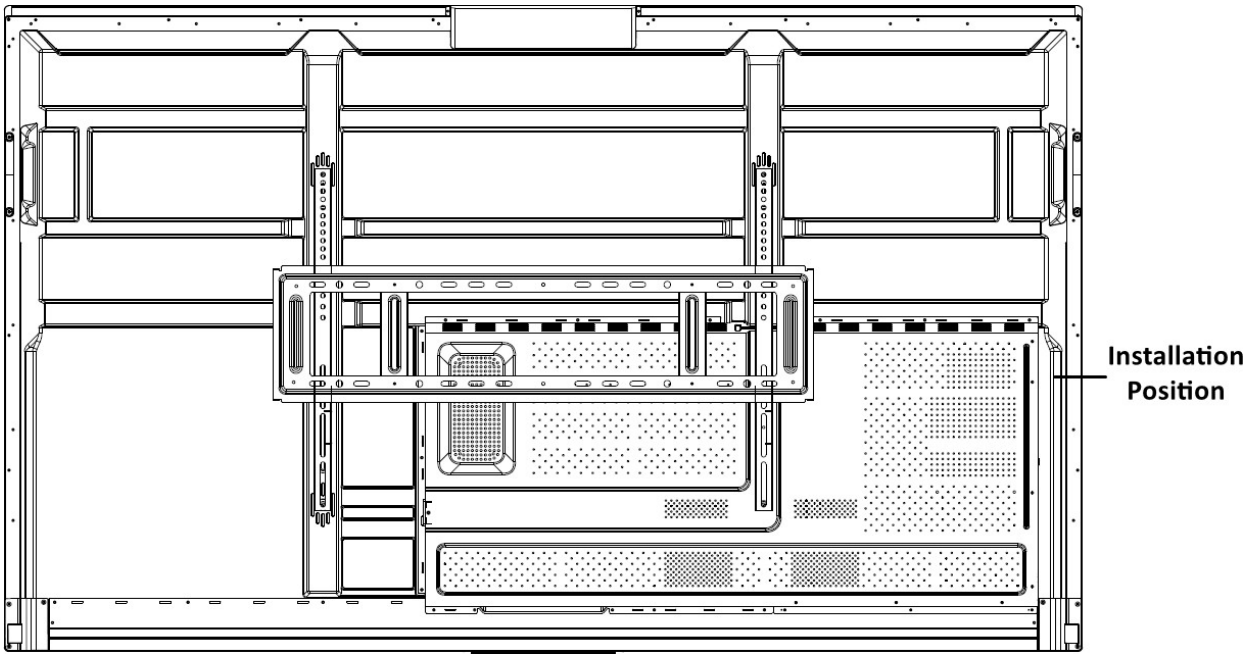


Figure 3-12 内蔵コンピュータ設置（86インチ、カメラ付き）

86インチ（カメラなし）

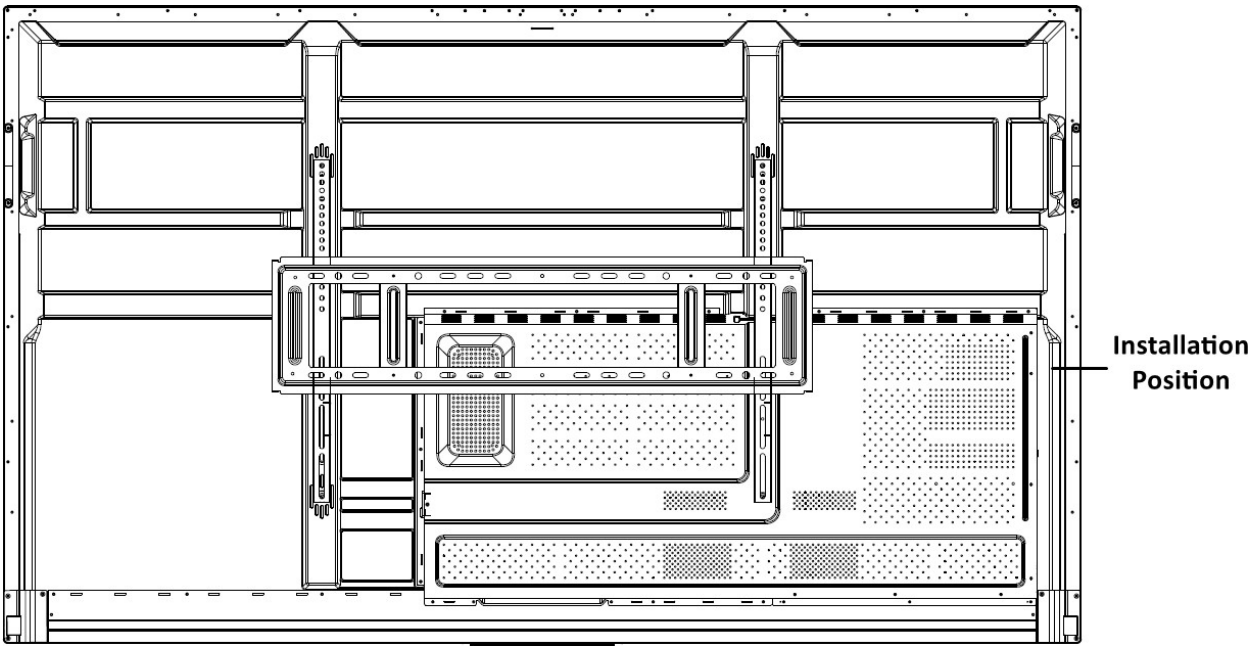


Figure 3-13 内蔵コンピュータ設置（86インチ、カメラなし）

コンピュータボックスは、本体の側面スロットに取り付けます。ボックスを取り付ける際は、上図のように、その通気孔が背面パネルと同じ方向を向いていることを確認してください。ネジを締めて、ボックスを所定の位置に固定してください。

Danger

- コンピュータはオプションのアクセサリーです。
- 本体の破損を防ぐため、コンピュータボックスは本体の電源を切った後にのみ取り外してください。

3.4 取り付け

本機は、下図に示すように、ウォールマウントまたは可動式マウントを使用して設置できます。

Note

ウォールマウント用と可動式マウント用のアクセサリーは異なります。混同しないようにしてください。

ウォールマウント取り付け

- 65 インチ（カメラ付き）

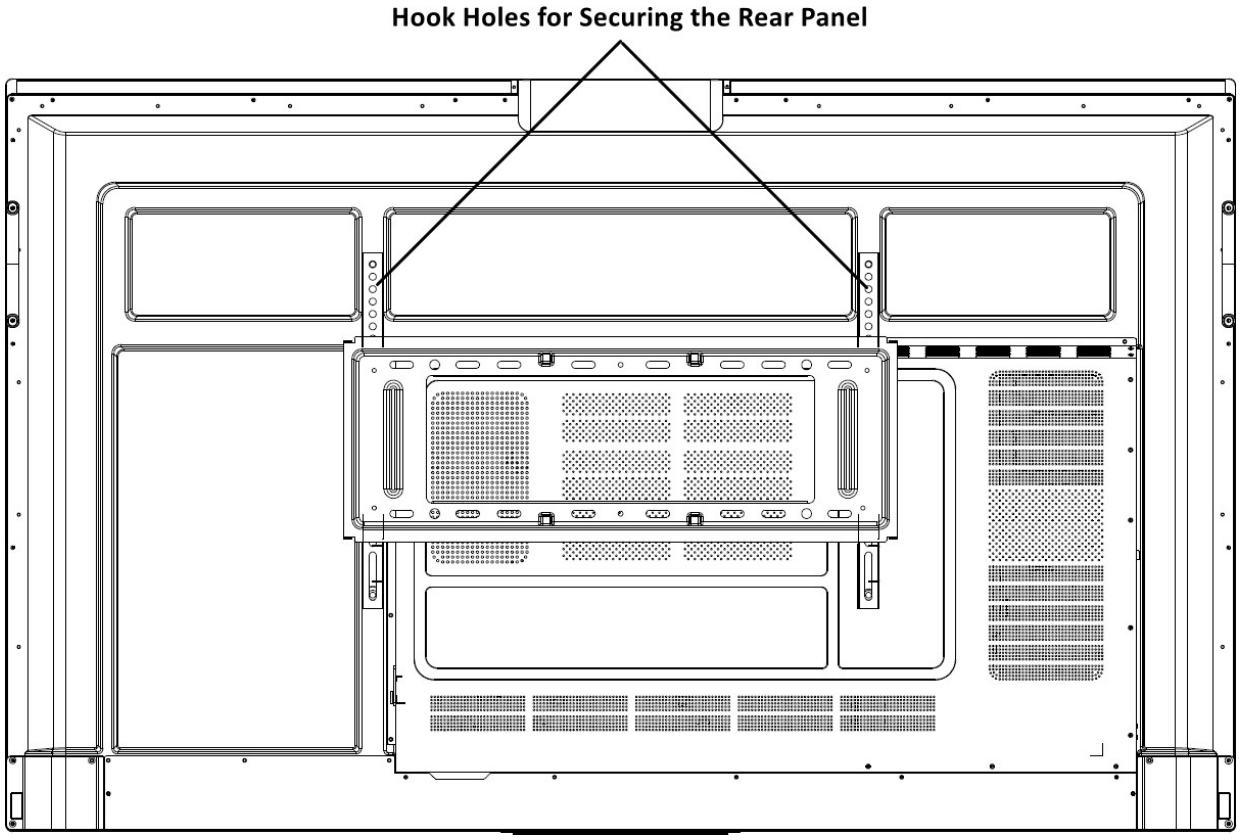


Figure 3-14 ウォールマウント取り付けの背面図（65インチ・カメラ付き）

Note

取り付け位置は、カメラ付き65インチモデルを例に図示しています。その他のサイズの背面図については、「*3.3 内蔵コンピュータ設置*」を参照してください。

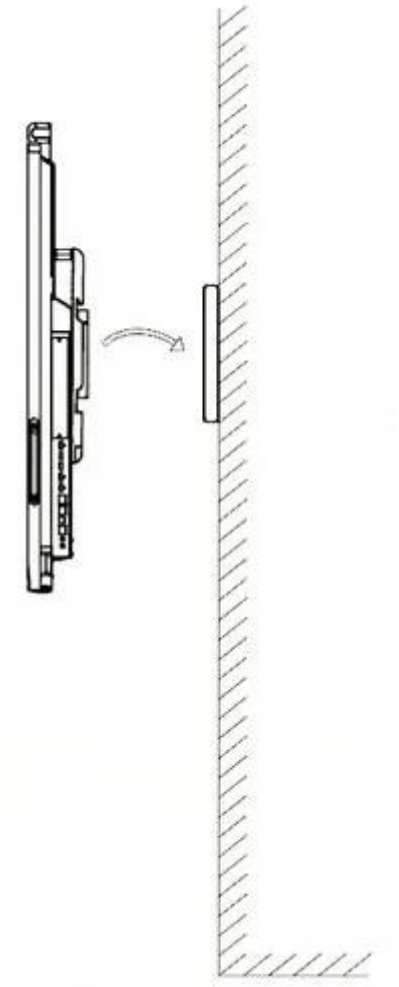


Figure 3-15 ウォールマウント設置の側面図

Note

ウォールマウント設置部は水平方向に可動します。メンテナンス作業のため、両側に6 cm以上（または片側に12 cm以上）、上下に5 mm以上のスペースを確保してください。

可動式取り付け

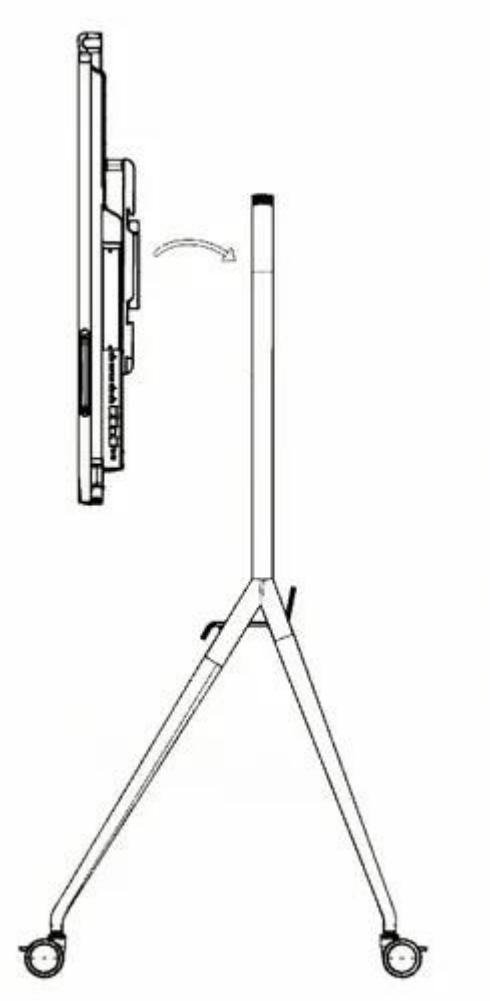


Figure 3-16 可動式取り付け

第4章 起動とシャットダウン

4.1 デバイスの起動

4.1.1 Installed Without a Computer Box

手順

Step 1 デバイスを電源に接続します。

Step 2 電源スイッチをオンにすると、フロントパネルの電源インジケータが赤色に点灯します。

Step 3 フロントパネルの電源ボタンを押してデバイスを起動すると、インジケータが青色に変わります。

4.1.2 Installed with a Computer Box

デバイスの電源を切った状態でボックスを取り付け、取り付けが完了したら電源スイッチをオンにしてください。起動中、ボックスの電源インジケーターが赤色に点灯し、ファンが回転し始めます。ビープ音が鳴った後、電源インジケーターが緑色に点灯し、コンピュータの電源が入ります。
その間、フロントパネルの電源インジケータが青色に点灯し、デバイスの電源が入っていることを示します。

4.2 スタンバイモード

4.2.1 Networked Standby Mode

本製品は、出荷時または工場出荷時設定へのリセット後、デフォルトでネットワーク接続スタンバイモードになります。

本機は、以下の方法により（電源インジケーターが赤色点灯している状態で）ネットワーク接続スタンバイモードに移行できます。

- 電源ボタンを長押しします。
- 同梱の赤外線リモコンを使用する。
- スケジュールされたシャットダウンを設定する。
- シリアルポート経由で対応するコマンドを送信する。

ネットワーク接続スタンバイモードにある本機を起動する方法については、「***6.9 詳細設定*** → **起動設定**」をご覧ください。

4.2.2 Normal Standby Mode

通常スタンバイモードに入る

「設定」→**「バージョン情報」**に移動し、**「エコモード」**を有効にしてください。

デバイスは、以下の方法により（電源インジケータが消灯している状態で）通常スタンバイモードに入ることができます。

- 電源ボタンを長押しします。
- 同梱の赤外線リモコンを使用する。
- スケジュールされたシャットダウンを設定する。

デバイスの起動

以下の方法で本機のスリープ解除を行ってください：

- 前面パネルの電源ボタンを押します。
- リモコンの電源オフボタンを押します。
- 画面の任意の場所を2回タップします。

4.3 シャットダウン

- デバイスにコンピュータボックスが設置されていない場合、またはコンピュータボックスの電源がオフになっている場合は、直接電源を切ってデバイスをシャットダウンしてください。
- 本機にコンピュータボックスが設置されており、その電源が入っている場合は、**「スタート」**をタップして **[シャットダウン]** を選択するか、コンピュータボックスの電源ボタンを押してシャットダウンしてください（電源ボタンを長押しすると強制シャットダウンになります）。その後、電源を切ってデバイスをシャットダウンしてください。

Note

デバイスの電源を直接切ると、コンピュータボックスの強制シャットダウンにつながります。次回デバイスが起動した際、Windows がエラー回復モードに入り、画面のタッチ操作が使用できなくなる場合があります。その場合は、デバイスにマウスとキーボードを接続する必要があります。

- リモコンの電源オフボタンを長押しします。

第5章 メニュー操作

Note

ソフトウェアのインターフェースや機能は、デバイスのモデルによって異なる場合があります。本マニュアルのすべての画像は、あくまで説明のためのものです。

デバイスの電源を入れ、メインページに移動します。画面の下部にショートカットメニューが表示されます。

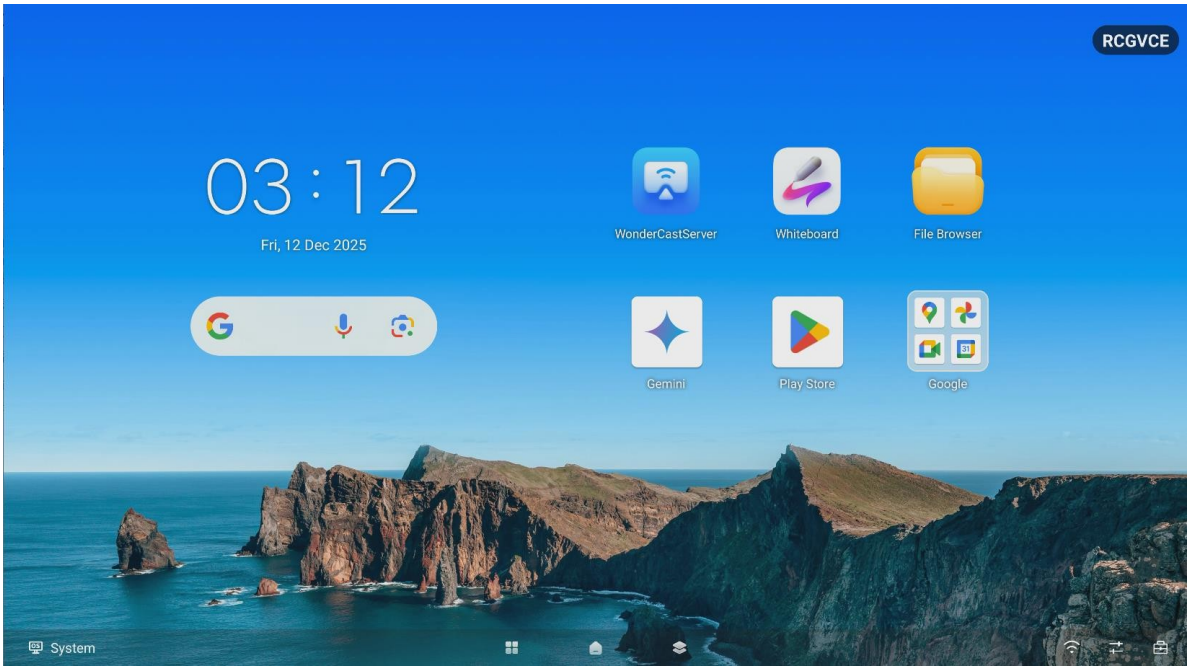


Figure 5-1 メインページ

Note

メインページのアプリケーションアイコンを長押しすると、以下の操作が行えます。

- アプリケーションを画面上で移動します。
- アプリケーションを他のアプリケーションと一緒にフォルダにまとめる。

5.1 基本操作

ショートカットアイコンの機能については、以下に説明します。

Figure 5-2 ショートカット

Table 5-1ショートカット 説明

No.	番号	No.	番号
1	タップすると、下部のメニューバーが非表示になります。	6	タップして、すべてのアプリのプロセスを確認またはクリアします。
2	タップして前のページに戻ります。	7	タップして、ネットワーク設定やホットスポットを設定します。
3	タップして入力ソースを選択します。	8	タップして、明るさと音量を設定します。
4	タップしてすべてのアプリケーションを確認します。 長押しすると、選択したアプリを分割画面モードまたはウィンドウモードで表示できます。	9	タップしてコントロールメニューを開きます。
5	タップしてメインページに戻ります。	/	/

Note

斜めのストロークを持つ線が無効になっている場合は最大20本のペンを使用できますが、有効になっている場合は1本のみ使用できます。下部のバーメニューが非表示になった後は、 から呼び出すことができます。

Figure 5-3下部バーを表示

5.2システムバー

システムバーの領域を長押しすると、システムバー内のアプリのレイアウトを変更できます。

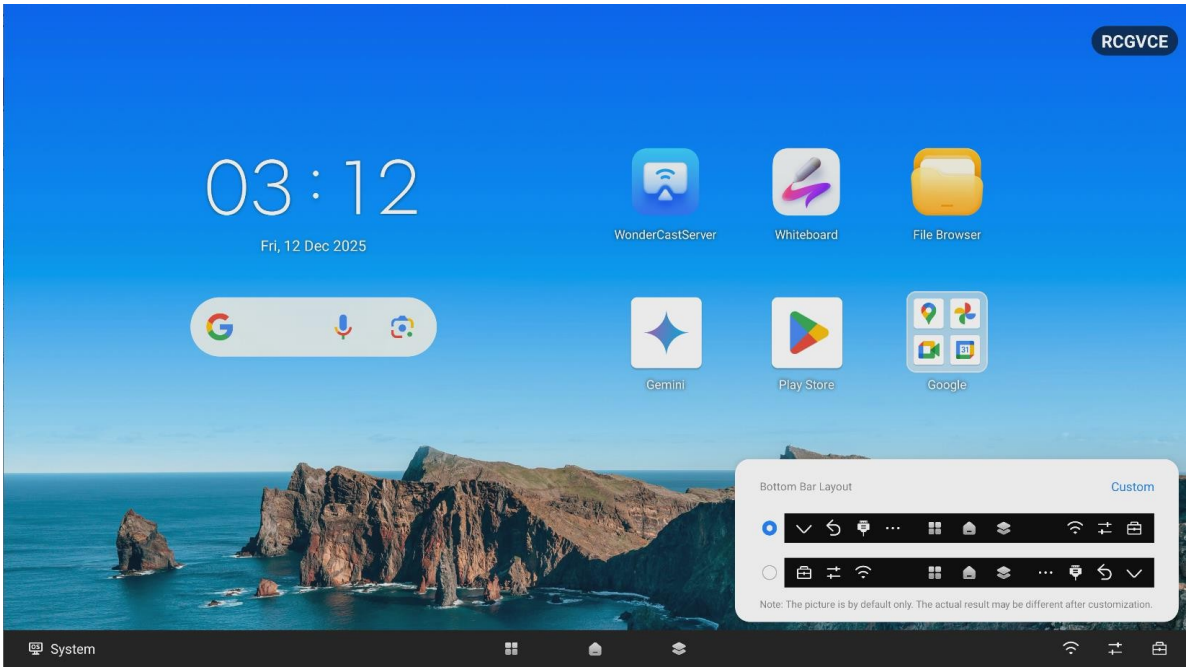


Figure 5-4 システムバーのレイアウト

「カスタマイズ」をタップし、アイコンを移動させて位置を調整します。

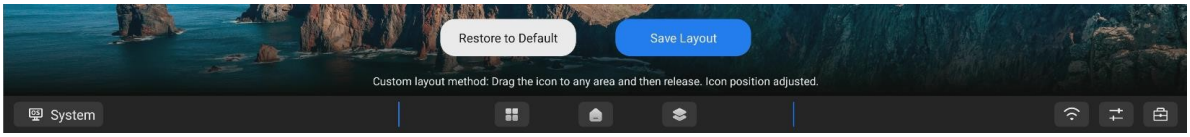


Figure 5-5 システムバーのレイアウトをカスタマイズする

5.3 入力ソース

下部にある入力ソースのアイコンをタップし、デバイスの入力ソースを設定します。**「システム」**、**「HDMI 1」**、**「HDMI 2」**、**「Type-C」**、**「DP」**、**「VGA」**が利用可能です。

5.4 ネットワーク

有線ネットワーク、無線ネットワーク、およびWLANホットスポットの詳細なパラメータを設定します。詳細については***「ネットワーク設定」***を参照してください。

5.5 コントロールメニュー

下部の「 」をタップして、コントロールメニューを表示します。以下の操作が可能です。

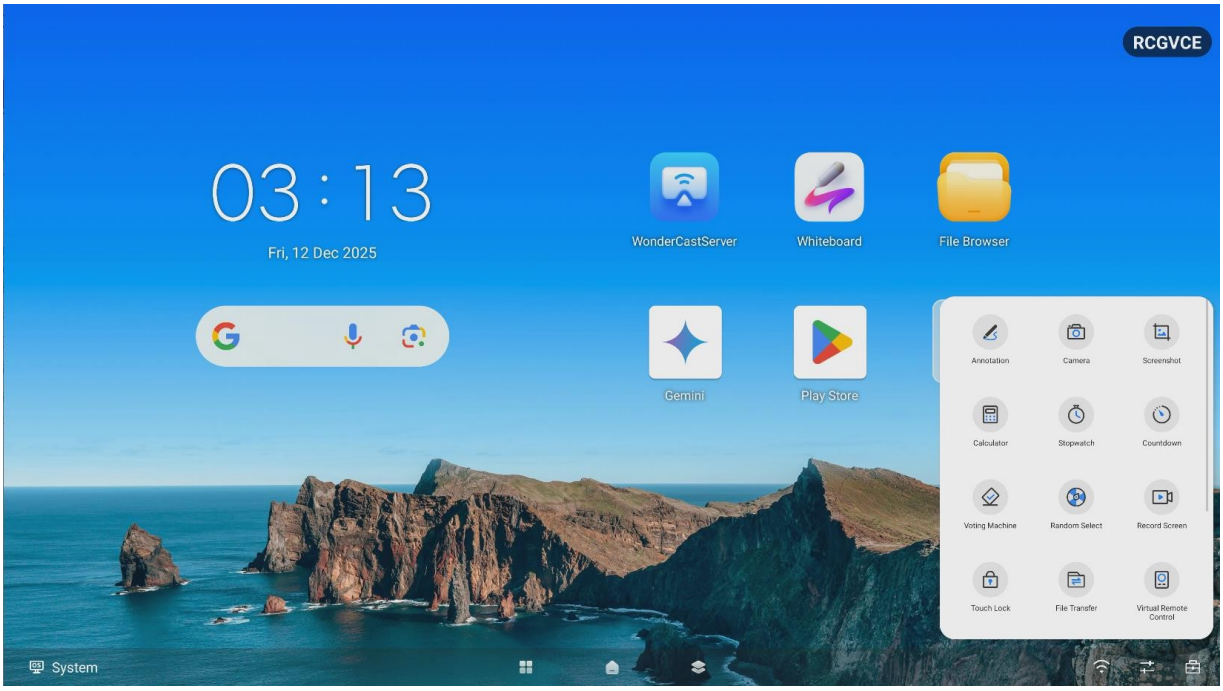


Figure 5-6 コントロールメニュー

Table 5-2 コントロールメニューの説明

ツール	説明
注釈	現在のページに注釈を追加します。
カメラ	デバイスに紐付けられたカメラを開きます。
スクリーンショット	現在のページをキャプチャします。
電卓	内蔵の電卓を起動します。
ストップウォッチ	ストップウォッチ
カウントダウン	秒をゼロまで逆算します。
投票機	投票を行うための設定を行います。
画面録画	画面をビデオとして録画します。
画面ロック	タップしてタッチロックを有効にすると、ロックされたページではタッチ操作ができなくなります。ロックをタップして終了すると、タッチ機能は通常に戻ります。
ファイル転送	ファイルを転送します。
仮想リモコン	仮想リモコンを有効にします。ホバー表示のリモコンメニューには、上、下、左、右、確定、戻る、ホームの各ボタンがあり、ホバー表示される仮想リモコンの位置は移動可能です。
メトロノーム	タップしてメトロノームを表示します。スタートボタンをタップすると、ビートが聞こえます。音符とビートは調整可能です。
拡大鏡	拡大鏡をタップします。その後、画面をタッチすると拡大サークルが表示され、移動させて詳細を確認できます。サークルの大きさは調整可能です。
スポットライト	タップすると絞りが点灯します。明るさと大きさを調整できます。
画面の固定	現在のページを静止させます。
画面を黒くする	タップして画面をオフにします。
カレンダー	日付情報を確認してください。
ピアノ	バーチャルピアノツール。
ランダム選択	選択肢の数を設定して、その中から1つをランダムに選択します。

5.5.1 Annotation

→ **Annotation** に移動して、メモを取りましょう。画面をタッチして移動することで、ページのどこにでもメモを追加できます。

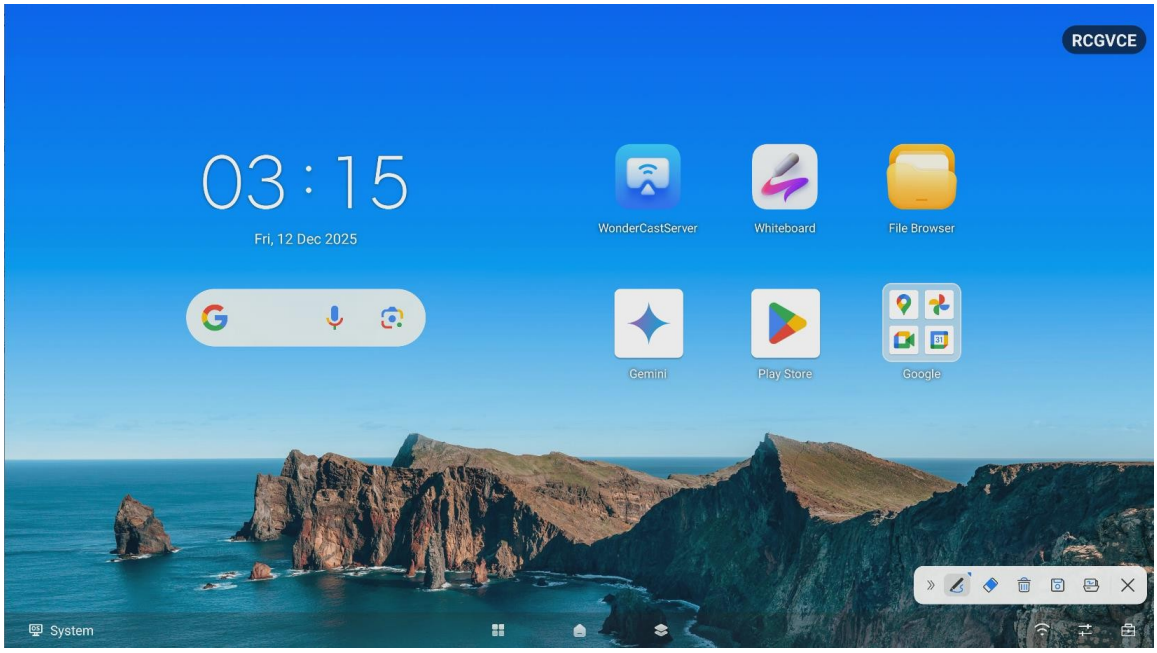


Figure 5-7 メモを取る

Table 5-3 アイコンの説明

アイコン	説明
	ペンの色とサイズはカスタマイズ可能です。 斜めのストロークを有効にするかどうか。タップ をタップすると斜めのストロークの線になり、 を タップすると、斜めのストロークのない線になります。
	不要なメモを消去します。
	すべてのメモを消去します。
	現在のページを保存します。 フラットパネルが LAN に接続されたら、ノートの QR コードを生成します。同じ LAN 内のデバイスは、QR コードをスキャンしてノートをダウンロードできます。
	注釈を一時的に保存します。
	メモを終了します。
》/《	ノートツールバーを折りたたむ／展開する。

5.5.2 Screenshot

「 」→**「スクリーンショット」**を選択すると、現在のページにキャプチャ領域が表示されます。四隅をタップしてドラッグし、領域を調整します。領域の右下にスクリーンショットツールバーが表示されます。

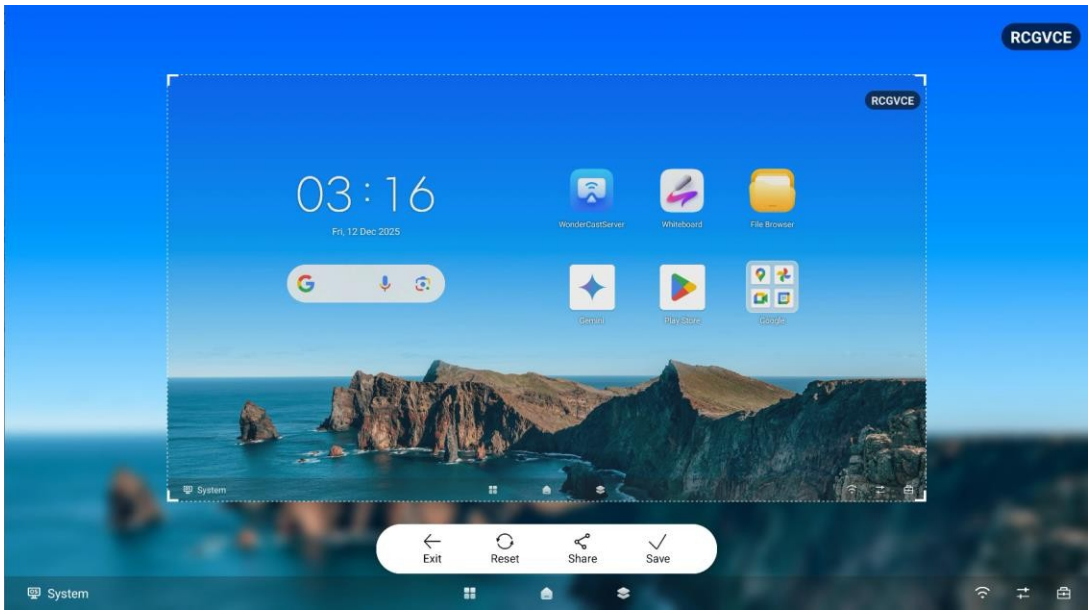


Figure 5-8 スクリーンショット

Table 5-4 スクリーンショットツールバーの説明

アイコン	説明
←	スクリーンショットを終了します。
↻	ページ全体をキャプチャします。
<	スクリーンショットからQRコードを生成し、同じLAN内のデバイスがそのQRコードをスキャンしてスクリーンショットをダウンロードできるようにします。
✓	キャプチャ領域にスクリーンショットを保存します。

5.5.3 Vote Machine

フラットパネルがパブリックネットワークに接続されたら、コントロールメニューの**「投票」を**タップします。クイック投票、または設定済みのオプションに基づいた投票を選択できます。

開始する前に

デバイスがネットワークに接続されていることを確認してください。

クイック投票

手順

Step 1 「**クイック**」をタップして、投票選択肢の数を選択します。

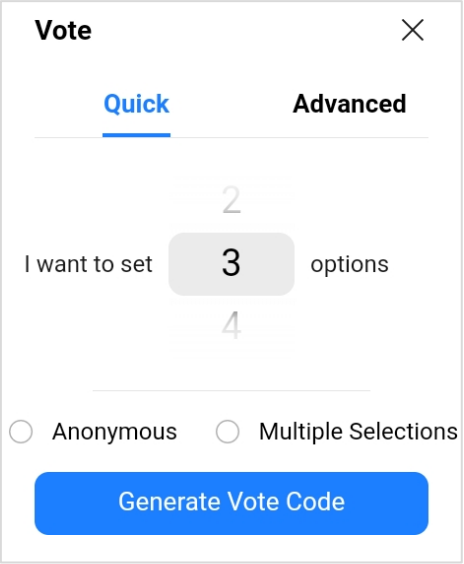


Figure 5-9 クイック投票

Step 2 実際のニーズに応じて、以下のパラメータを設定してください。

- 匿名：名前を明かさずに投票します。
- 複数選択：投票時に複数の選択肢を選択します。

Step 3 「**投票コードを生成**」をタップして、携帯電話でコードをスキャンして投票します。

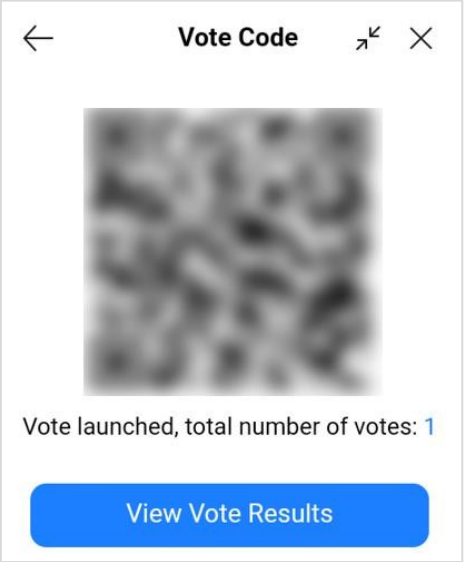


Figure 5-10 携帯電話での投票

Step 4 「**投票結果を表示**」を**タップ**して投票を終了し、詳細を確認します。

Step 5（オプション）**「スキャンしてダウンロード」**をタップして、携帯電話で投票結果をダウンロードします。

詳細な投票

手順

Step 1**「詳細」を**タップして、携帯電話でQRコードをスキャンして投票できるように設定します。

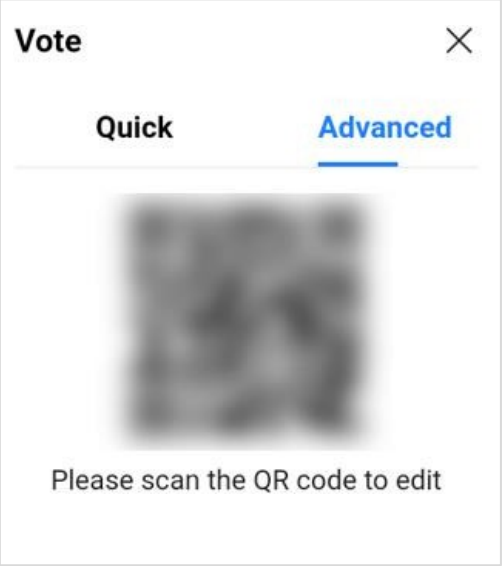


Figure 5-11詳細設定

Step 2実際のニーズに応じて、以下のパラメータを設定してください。

- 投票テーマ/投票オプション：カスタム設定。
- 匿名：名前を明かさずに投票します。
- 複数選択：投票時に複数の選択肢を選択できます。

Step 3**「投票を開始」**をタップして、携帯電話でコードをスキャンして投票します。Step 4**「投票結果を表示」**をタップして投票を終了し、詳細を確認します。

Step 5(オプション)**「スキャンしてダウンロード」**をタップして、携帯電話で投票結果をダウンロードします。

5.5.4 Random Select

教室では、抽選を行ったり、質問に答える生徒をランダムに選んだりすることができます。

手順

Step 1→「**ランダム選択**」に移動し、選択肢の数を設定します。「**次へ**」をタップします。

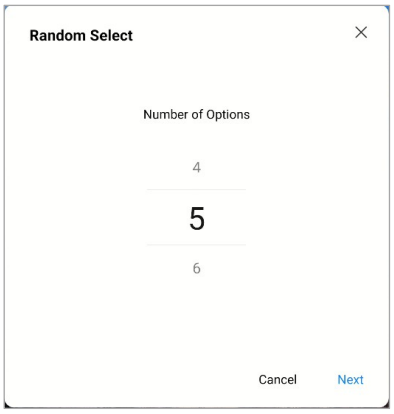


Figure 5-12 選択肢の数を設定

Step 2 「 」をタップしてラッキーホイールを回し始め、もう一度タップして停止させます。すると、ランダムに選ばれた選択肢が表示されます。

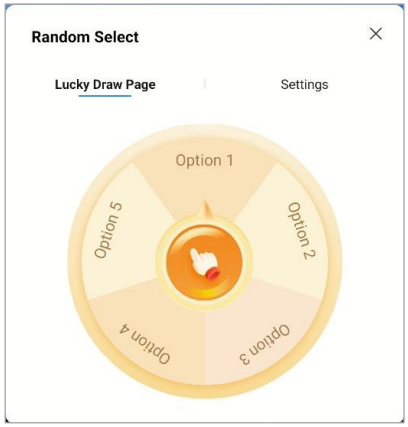


Figure 5-13 ラッキーホイール

Note

「設定」をタップすると、オプションの名前を編集できます。

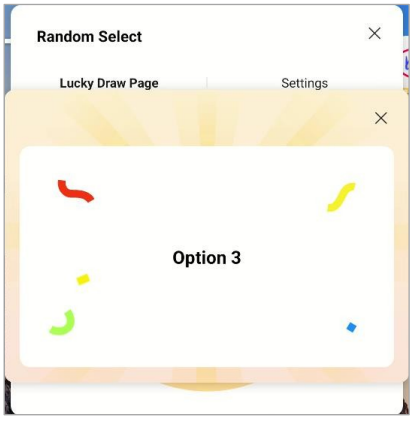


Figure 5-14 選択されたオプション

5.6 カメラ機能

5.6.1 Camera

「カメラ」をタップして、写真やビデオを撮影します。

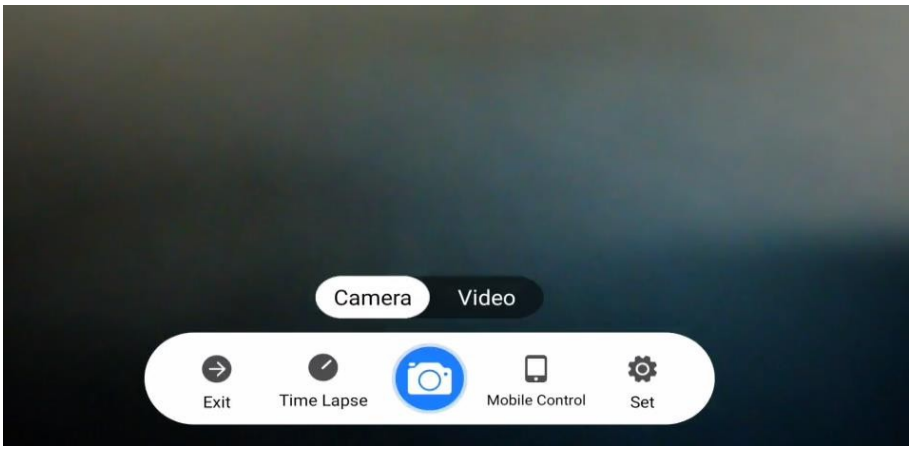


Figure 5-15 カメラ

Table 5-5 スクリーンショットツールバーの説明

アイコン	説明
	カメラを終了します。
	選択した遅延時間に応じて、撮影を遅らせます。
	写真を撮影します。撮影した写真はホワイトボードにインポートしたり、携帯電話に保存したりできます。
	携帯電話と本機が同じ LAN に接続された後、コードをスキャンしてカメラを操作し、写真を撮ることができます。

5.6.2 Video

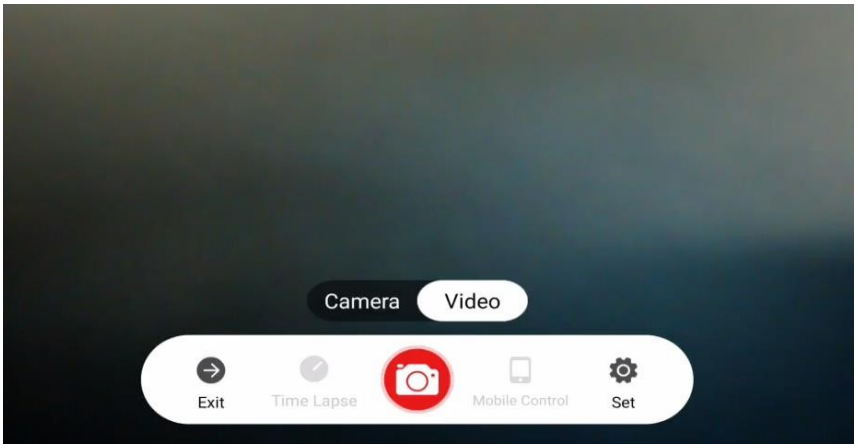


Figure 5-16 ビデオ

Table 5-6 スクリーンショットツールバーの説明

アイコン	説明
	ビデオを終了します。
	録画を開始します。

5.6.3 Settings

「設定」をタップして、以下のパラメータを設定します。

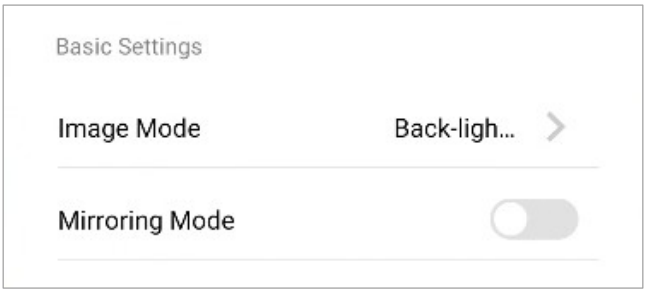


Figure 5-17 カメラの設定

画像モード

タップして、**「標準」**、**「鮮やか」**、**「逆光」**などの画像モードを選択します。 **ミラーリングモード**

有効にすると、カメラの画像がミラー表示されます。

第6章 システム設定

デバイスの電源を入れると、画面にメインページが表示されます。画面を左右にスワイプして、アプリケーション、デバイスのステータス、およびヘルプドキュメントを表示します。

6.1 ネットワーク設定

画面の下部にネットワークの状態が表示されます。

Table 6-1 ネットワークの状態

アイコン	説明
	有線ネットワークに接続されています。
	ワイヤレスネットワークに接続されています。
	ネットワークに接続されていません。

6.1.1 Wired Network Settings

手順

Step 1 **[設定]** → [**ネットワーク**] → [**有線ネットワーク]** に移動します。 Step 2 **[有線ネットワーク]** を有効にし、**IPv4** または **IPv6** を設定します。

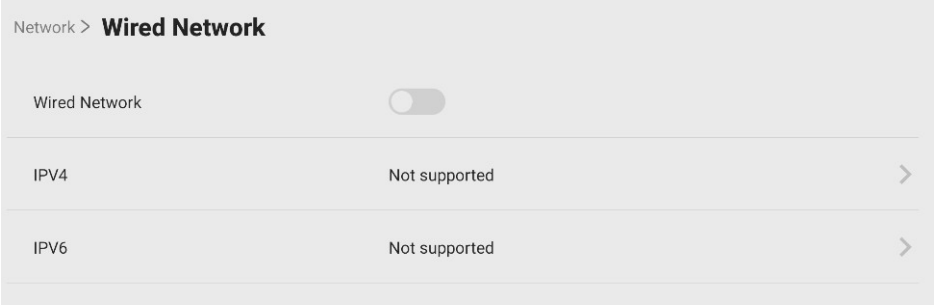


Figure 6-1 有線ネットワークの設定

Step 3 (オプション) タップして、**プロキシ**または**静的 IP を**有効にします。 **プロキシ設定**

プロキシを有効にする場合は、**プロキシホスト**と**ポート No. を**設定し、プロキシを使用しない URL を設定する必要があります。

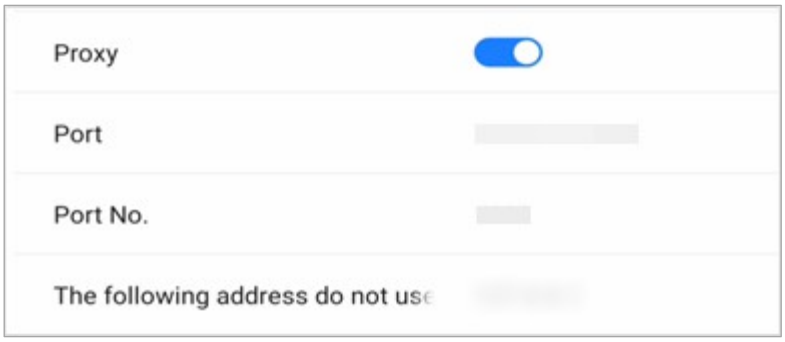


Figure 6-2 プロキシ設定

静的 IP 設定

静的 IP を有効にする場合は、**静的 IP**、**ゲートウェイ**、**サブネットマスク**、**DNS1**、**DNS2** などのネットワークパラメータを設定する必要があります。

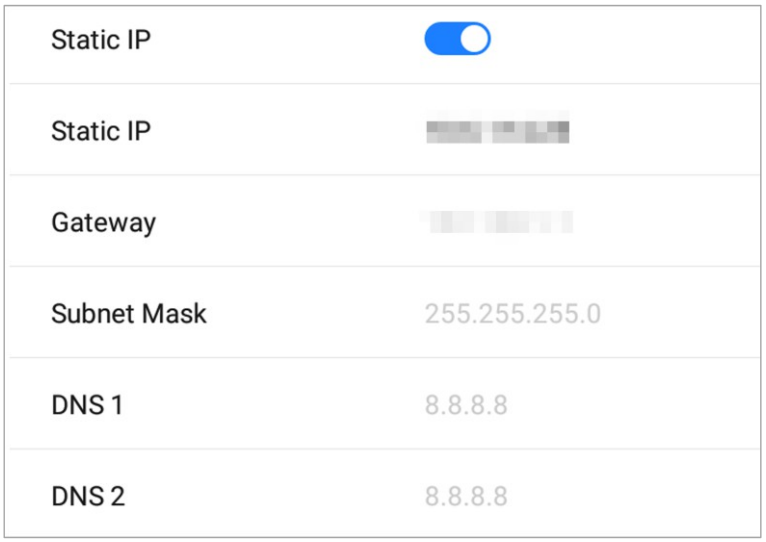


Figure 6-3 静的 IP 設定

6.1.2 Wireless Network Settings

手順

Step 1 [**設定**] → [**ネットワーク**] → [**ワイヤレスネットワーク**] に移動します。

Step 2 WLANを有効にすると、新しいネットワークを追加したり、利用可能なネットワークに接続したりできます。

利用可能なネットワークへの接続

- 利用可能なネットワーク一覧から目的のネットワークをタップし、パスワードを入力して接続します。
- **「接続」**をタップすると、ネットワーク情報ページが表示されます。**「ネットワークを削除」**をタップすると、選択したネットワークの情報が削除されます。**「キャンセル」**をタップすると、ページを閉じます。

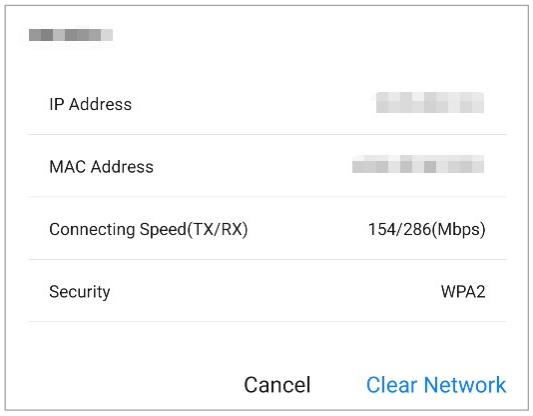


Figure 6-4 ワイヤレスネットワーク情報

その他のネットワークの追加

手順

Step 1 「**その他のネットワークを追加**」をタップします。

Step 2 Wi-Fiの名前を入力し、「**セキュリティ**」を選択します。

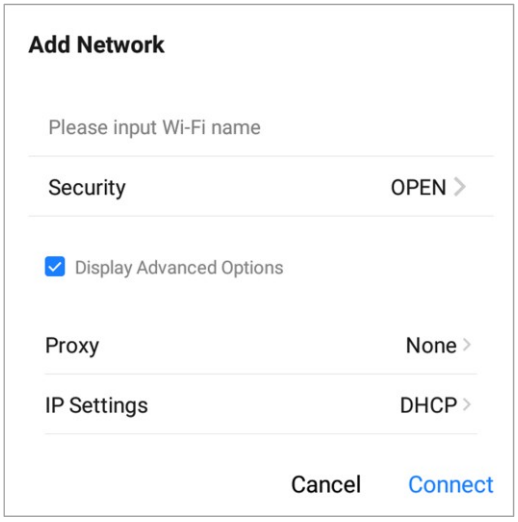


Figure 6-5 その他のネットワークを追加

Step 3 オプション：「**詳細設定を表示**」にチェックを入れて、プロキシやネットワークの IP タイプを選択します。Step 4 「**接続**」をタップして、デバイスを追加したワイヤレスネットワークに接続します。

6.1.3 WLAN Hotspot Settings

デバイスが有線ネットワークに接続されると、WLAN ホットスポットが有効になっている他のデバイスにワイヤレスネットワークを提供できるようになります。

手順

Step 1 [**設定**] → [**ネットワーク**] → [**ホットスポット**] に移動します。

Step 2「**ポータブル WLAN ホットスポット**」を有効にします。

最適なチャネル：有効にした後、リストから最適なチャネルを選択できます。

ホットスポットの分離：AP 分離は、ユーザーのプライバシーを保護するために、同じ Wi-Fi ネットワーク上のデバイス間の通信をブロックします。AP 分離を有効にすると、デバイスが LAN に接続されていても、LAN 内のウェブサイトなどのリソースにアクセスすることはできなくなります。

Step 3ポップアップページでパラメータを設定します。

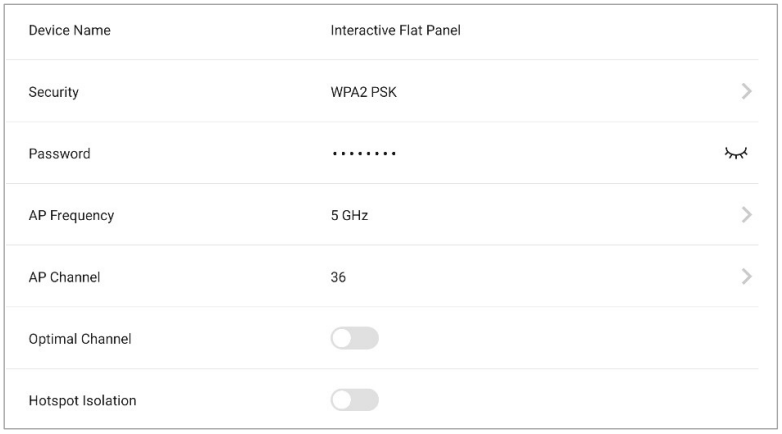


Figure 6-6ホットスポットの設定

Note

デバイスが 2.4 GHz と 5 GHz の両方をサポートしている場合は、**AP 周波数に** 5 GHz を、**AP チャネルに**推奨チャネルを設定すると、ワイヤレス画面ミラーリングなどの機能をより快適に利用できます。

6.2 ディスプレイ設定

[設定] → [**ディスプレイ]** にGoし、明るさやスリープ時間などのパラメータを調整します。

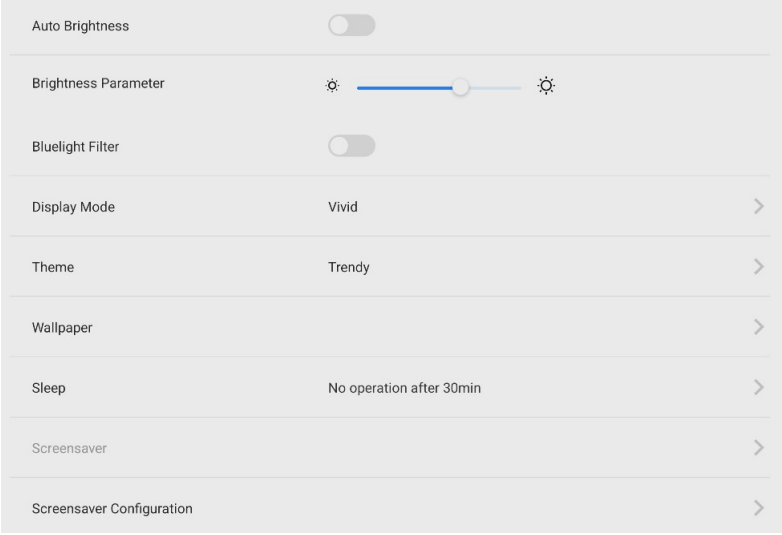


Figure 6-7ディスプレイ設定

自動輝度調整

この機能を有効にすると、デバイスは環境に応じて自動的に輝度を調整します。

明るさ設定

スライダーをスライドさせて、画面の明るさを調整します。

ブルーライトフィルター

この機能を有効にすると、ブルーライトをカットして目を保護します。

表示モード

表示モードを設定します：「**明るい**」、「**標準**」、「**ダイナミック**」、「**鮮やか**」、「**カスタム**」。

- カスタムモード
  1) **「カスタム」**を選択して、カスタムモードに入ります。
  2) 左下の**「カスタム」**をタップし、スライダーを動かしてパラメータを調整します。**「保存」を**タップして、独自のモードを保存します。保存できるカスタムモードは 1 つだけです。

テーマ

デバイスのテーマを設定します。**「設定」**をタップして希望のテーマを選択し、**「適用」**をタップします。 **壁**

紙

「壁紙」をタップして、壁紙ライブラリまたはシステムの画像ライブラリから希望の画像を壁紙として選択するか、デフォルトの壁紙に戻します。

スリープ

スリープモードに移行するまでの非アクティブ時間を設定します。

スクリーンセーバー

スクリーンセーバーを有効にするまでの非アクティブ時間を設定します。

スクリーンセーバーの設定

ポップアップ画面でスクリーンセーバーの画像をタップして選択し、**「ライブビュー」**をタップして効果をプレビューします。**「適用」を**タップすると、選択した画像がスクリーンセーバーとして設定されます。スクリーンセーバーはカスタマイズすることも可能です。

Note

「＋」をタップすると、**「スクリーンセーバーの設定」**で新しいスクリーンセーバー画像を追加できます。

6.3 オーディオ設定

手順

Step 1 **「設定」**→**「オーディオ」**に移動して、オーディオパラメータを設定します。

Step 2 実際の設置方法に応じて「**オーディオモード**」を選択してください。

- 通常モード：低音があり、自然な音質です。
- 会議モード：クリアなボーカルに重点を置き、低音を低減した、デフォルトの会議モードです。

Step 3 **音**量値を調整します。

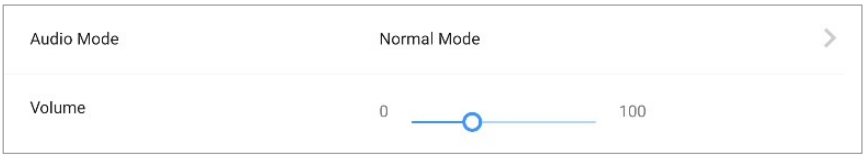


Figure 6-8 オーディオ設定

6.4 言語と入力設定

手順

Step 1 **[設定]** → **[言語と入力]** にGoします。

Step 2 **[言語]** をタップして、目的の言語を選択します。

Step 3 「**入力方式**」をタップして、希望の入力方式を選択します。「**地域**」をタップして

Step 4 、地域を選択します。

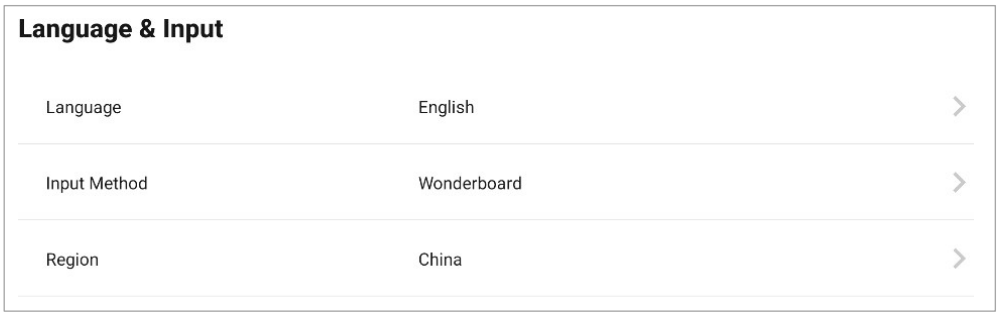


Figure 6-9 言語と入力の設定

6.5 日付と時刻の設定

手順

Step 1 「**設定**」→「**日付と時刻**」に進みます。

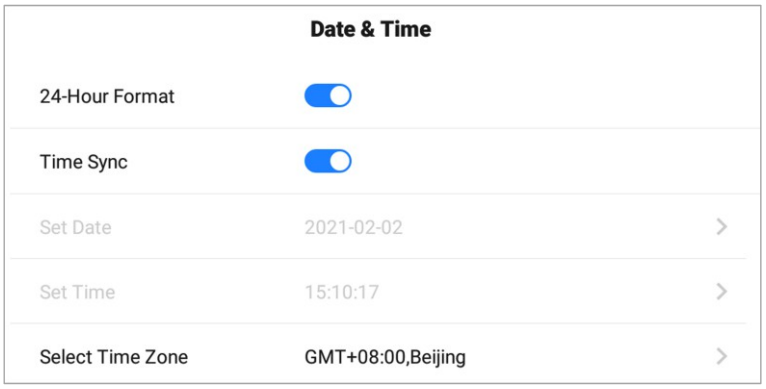


Figure 6-10 日付と時刻の設定

Step 2 「**時刻同期**」を有効にします。

Step 3 「**タイムゾーンを選択**」をタップして地域を選択します。

Step 4 オプション：「**24 時間表示**」を有効にすると、時刻が 24 時間形式で表示されます。

Note

「**時刻同期**」が無効になっている場合は、日付と時刻を手動で設定できます。

6.6 アプリケーション管理

手順

Step 1 「**設定**」→「**アプリケーション管理**」に移動します。目的のアプリ

Step 2 ケーションをタップして詳細を確認します。

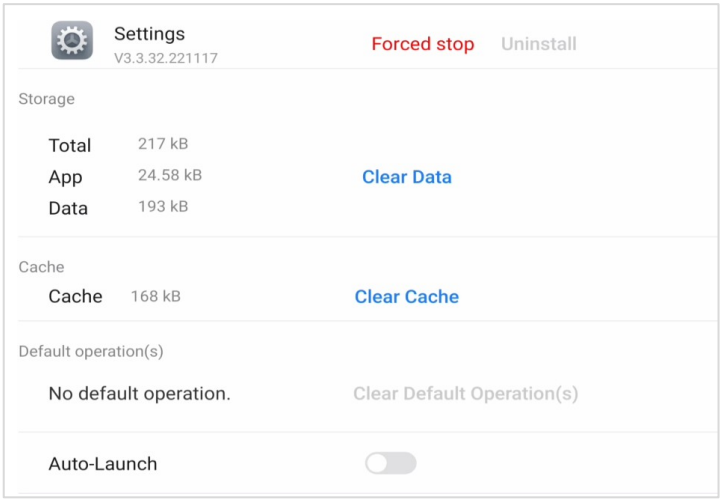


Figure 6-11 アプリケーションの詳細

Note

- プリインストールされたアプリケーションはアンインストールできません。「**アプリケーションの詳細**」画面のアイコンをタップすると、そのアプリケーションを開くことができます。
- サードパーティ製アプリケーションのインストール後、4Kディスプレイを有効にすることができます（機器の再起動後に有効になります）。

Step 3「**自動起動**」を有効にします。これにより、デバイスの電源投入時に選択したアプリケーションが自動的に起動します。

6.7 Bluetooth

リモコン、オーディオ、キーボードなどを Bluetooth 経由で接続したり、ファイル転送を行ったりすることができます。

Bluetooth を有効にして、近くにある利用可能なデバイスを検索し、接続したいデバイスをタップして接続します。

6.8 補助機能

6.8.1 Sidebar

サイドバーを有効にすると、注釈の追加、信号ソースの切り替え、コントロールメニューのツール、明るさの調整など、一部の機能をすばやく操作できます。

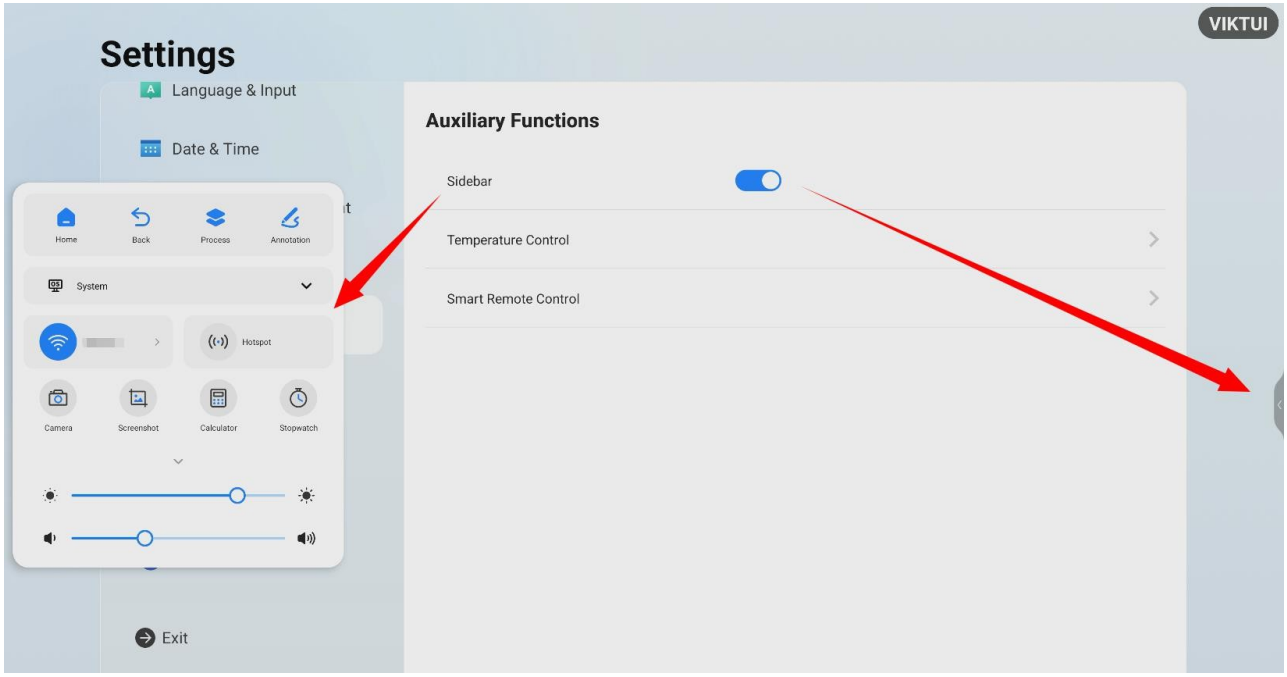


Figure 6-12 サイドバー

6.8.2 Temperature Control

本機は内部温度をリアルタイムで監視します。温度が設定された警告温度またはアラーム温度を超えた場合、本機はプロンプトメッセージを表示し、ユーザーが速やかに対処できるよう促します。

手順

Step 1 [**設定**] → [**補助機能**] → [**温度制御**] にGoします。

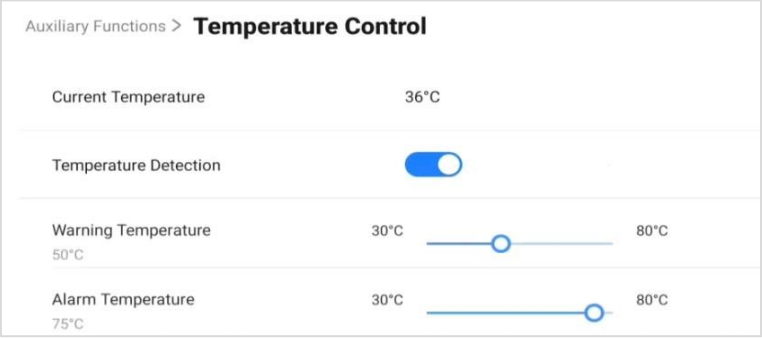


Figure 6-13 インテリジェント温度制御

Step 2 「**温度検出**」を有効にします。

Step 3 スライダーをスライドさせて、「警告温度」と「アラーム温度」を設定します。

Note

設定したアラーム温度を超えると、温度情報が表示され、デバイスの電源を切るよう促されます。

6.8.3 Physical Button Settings

物理ボタンの機能はカスタマイズ可能です。

手順

Step 1 「**設定**」→「**補助機能**」→「**物理ボタンの設定**」に進みます。

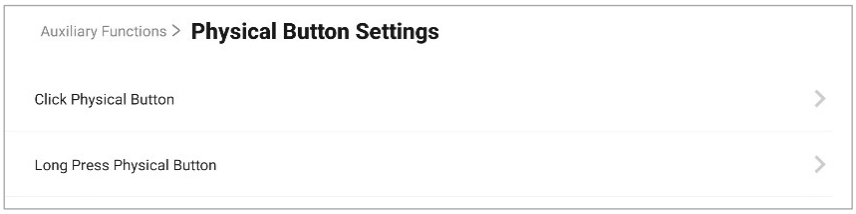


Figure 6-14 物理ボタンの設定

Step 2 「**物理ボタンをタップ**」をタップして、OPS スイッチ、クイック録画、ホワイトボードのクイックオープン、PC への切り替え、または無操作のいずれかの機能を設定します。デフォルト設定は「**PC への切り替え**」です。物理ボタンを押すと、デバイスは PC に切り替わります。

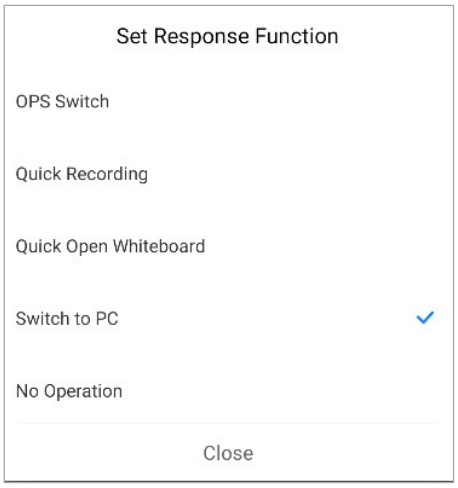


Figure 6-15 応答機能の設定

Step 3 **「物理ボタンの長押し」**をタップして機能を設定します。物理ボタンを長押しすると、設定した対応する機能が実行されます。

6.9 詳細設定

「設定」→**「詳細設定」**を選択します。以下のパラメータを設定できます。

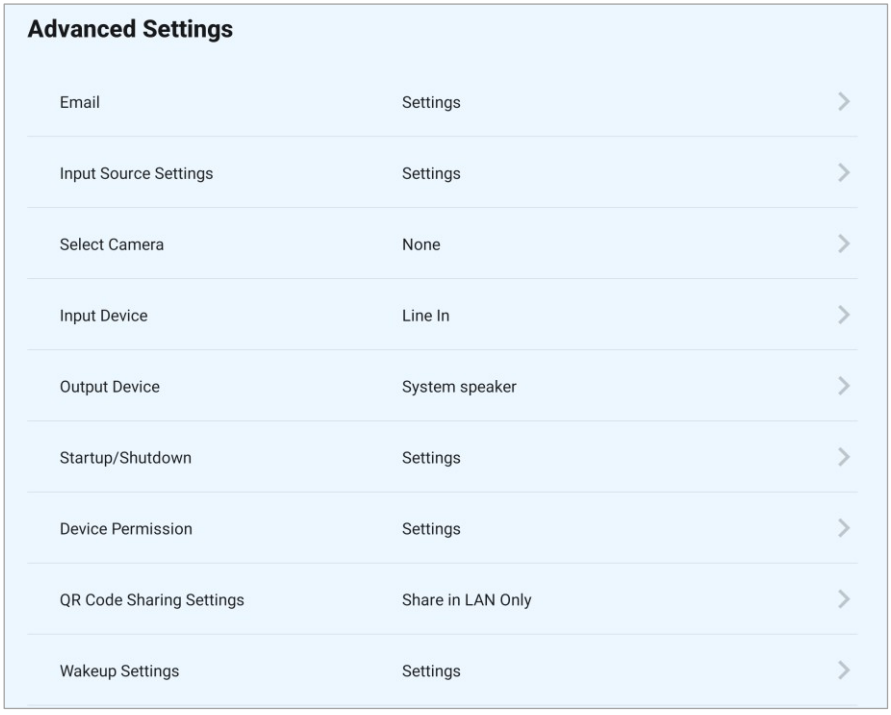


Figure 6-16 詳細設定

Eメール

ホワイトボードから共有コンテンツを受信するためのメールアドレスを設定します。

入力ソース設定

- 起動時の入力ソース

  デバイスの起動時に使用する入力ソースを選択します。内蔵システムまたは外部入力ソースを選択できます。デフォルトの起動時入力ソースは Android です。入力ソースの
  名前のカスタマイズに対応しています。

- 信号ソース接続時の自動切り替え

  この機能を有効にすると、外部入力ソースが接続された際に、システムは新しく接続された入力ソースに切り替わります。

- 信号源から切断された際の自動切り替え

  この機能を有効にすると、デバイスが外部入力ソースから切断された時点で、システムは設定された入力ソースに切り替わります。

カメラの選択

デバイスに紐付けられているカメラの中から、カメラを選択します。

入力デバイス

外部 USB 入力オーディオデバイスに対応しており、複数のデバイスからオーディオ入力デバイスを選択できます。

出力デバイス外部 USB 出力オーディオデバイスに対応しており、複数のデバイスからオーディオ出力デバイスを選択できます。

外部 USB 出力オーディオデバイスに対応しており、複数のデバイスからオーディオ出力デバイスを選択できます。

起動/シャットダウン設定

- 起動モード

  「起動」または「スタンバイ」を選択します。

- スケジュールによる電源オン/オフ

  起動およびシャットダウンのスケジュールを設定します。

- 信号なし時のシャットダウン

  信号が受信できない場合の自動シャットダウン時間を設定します。

デバイスの権限設定

- Wi-Fiを無効にする

  Wi-Fi を無効にすると、デバイスはワイヤレスネットワークに接続できなくなります。

- USB フラッシュドライブを無効にする

  USB フラッシュドライブを無効にすると、外部ストレージデバイスを使用できなくなります。

QRコード共有設定

QRコードを介して、同じLAN内の他のデバイスとホワイトボードのコンテンツを共有します。

ウェイクアップ設定

- シリアルポートからのウェイクアップ

  この機能を有効にすると、スタンバイ状態のデバイスをシリアルポートコマンドで起動することができます。

- 信号ソースからのウェイクアップ

  HDMI 信号によるウェイクアップは、デフォルトで有効になっています。本機の電源がオフの状態で、HDMI 入力を通じて電源をオンにすることができます。

Note

この機能を無効にすると、スタンバイ状態のデバイスは電源スイッチまたはリモコンの電源スイッチで起動できますが、シリアルポートやHDMIからは起動できなくなります。

EDID バージョン

EDID のバージョンを選択できます。

省エネシャットダウン

「シャットダウン」をタップしてデバイスの電源を切り、省エネを図ります。

6.10 ユーザー設定

「設定」→**「ユーザー設定」**に移動し、アカウント情報やログイン方法を設定します。

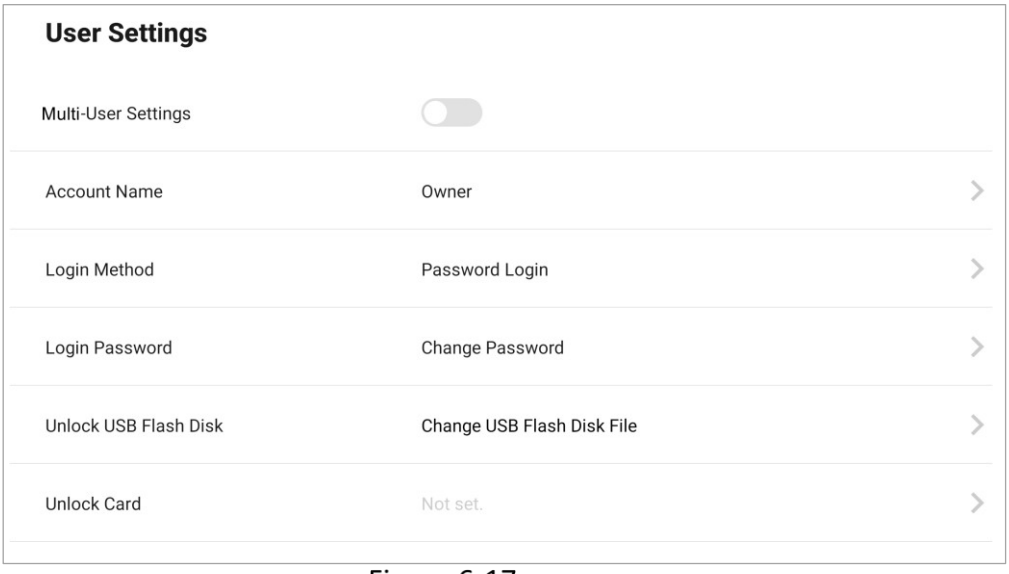


Figure 6-17 ユーザー設定

マルチユーザー設定

「マルチユーザー設定」を有効にすると、現在のユーザーの編集、ログイン方法の設定、アカウントの追加、変更、削除を行うことができます。

アカウント名

自分のアカウント名を設定・編集できます。

ログイン方法

「パスワード不要のログイン」または**「パスワードログイン」**からログイン方法を選択してください。 **ログインパスワード**

タップして、ログインパスワードを設定・変更します。

USBフラッシュディスクのロック解除

タップして、USBフラッシュディスクによるログイン方法を設定します。

手順

Step 1 **「USB フラッシュディスクのロック解除」**をタップします。

Step 2 ログインパスワードを入力し、USBフラッシュドライブを1本挿入してください。

Step 3 **「ファイルを生成」**をタップします。デバイスが自動的にUSBフラッシュドライブ内にロック解除ファイルを生成します。ファイルが生成された後は、次回からUSBフラッシュドライブを直接挿入するだけで簡単にログインできます。

Figure 6-18 ロック解除用USBフラッシュドライブのリンク

ロック解除カード

タップして、ロック解除カードによるログイン方法を設定します。

手順

Step 1 **「カードのロック解除」**をタップします。

Step 2 ログインパスワードを入力すると、**「アンロックカードをリンク」**が表示されます。

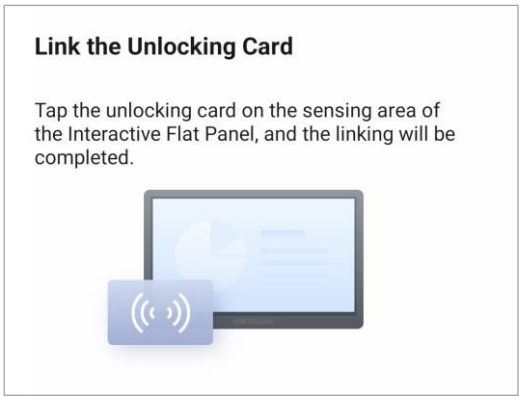


Figure 6-19 アンロックカードの登録

Step 3 デバイスのNFC読み取りエリアにアンロックカードをタッチしてください。リンクが完了すると、次回からは読み取りエリアにアンロックカードを直接タッチするだけでログインできるようになります。

6.11 端末情報

「設定」→**「**端末情報**」**に移動して、端末情報を確認してください。端末名は変更可能で、端末をデフォルト設定に復元することもできます。

Caution

設定をデフォルトの状態に復元すると、すべてのデータが失われます。

6.12 サブ画面

画面の左側から右側へスワイプすると、ネガティブ画面が表示され、デバイスのステータスやシステムのヘルプを確認できます。

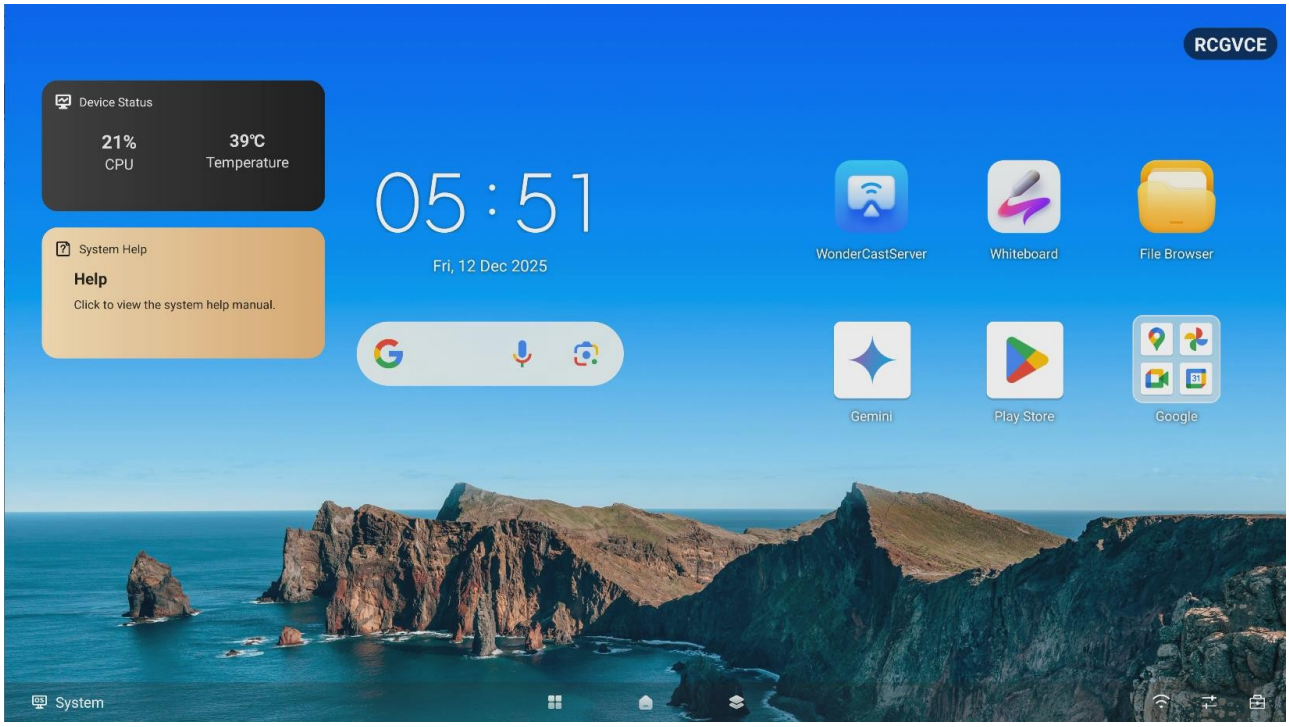


Figure 6-20 ネガティブ画面

第7章 インテリジェントアプリケーション

7.1 FileBrowser

メインページで「**FileBrowser**」**を**タップします。デフォルトでは、現在のディレクトリにあるすべてのファイルが表示されます。

7.1.1 Local Storage

「画像」、「**ドキュメント**」、「**A/V**」、または「**インストールパッケージ**」をタップすると、指定したファイルを表示できます。アイコンの説明は次のとおりです。

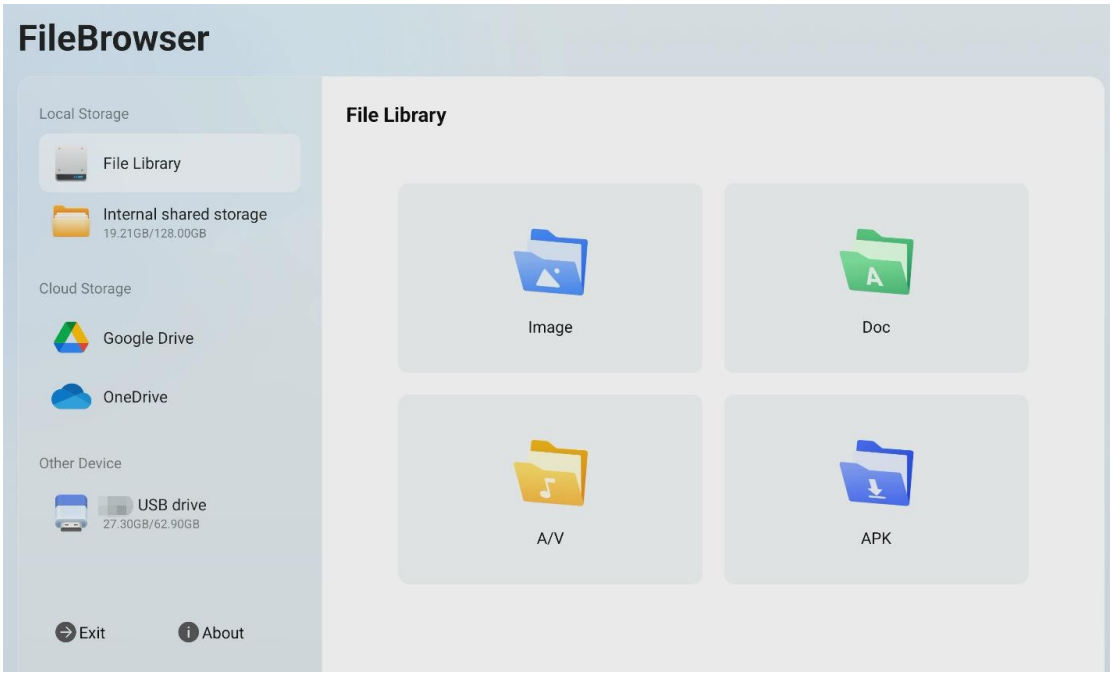


Figure 7-1 ファイル管理

Table 7-1 ファイル管理アイコンの説明

アイコン	説明	アイコン	説明
戻る／進む	前のページ／次のページへ移動します。	作成	新規フォルダの作成。
グリッド／リスト	ファイルをグリッドモードまたはリストモードで表示します。	並べ替え	ファイルの順序を変更します。
編集	ファイルを編集します。	/	/

「 」をタップしてドキュメントを編集します。その他の機能については、以下で説明します。

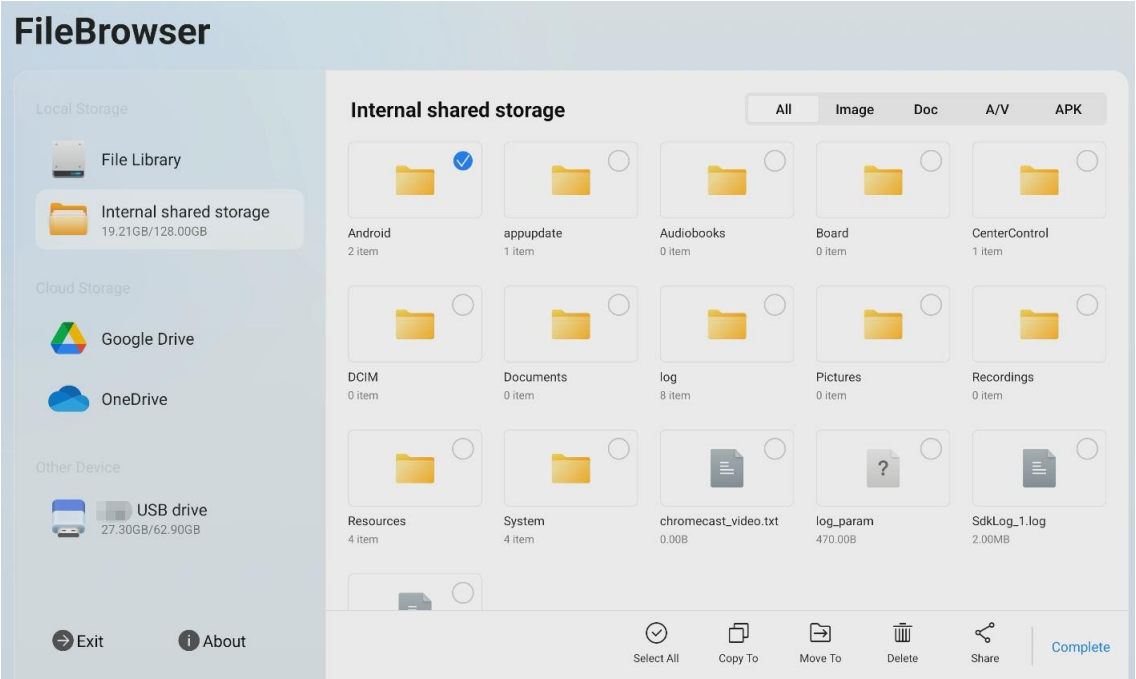


Figure 7-2 ファイルの編集

Table 7-2 編集アイコンの説明

アイコン	説明	アイコン	説明
すべて選択	すべてのファイルを選択します。	コピー先	選択したファイルを別のフォルダにコピーします。
移動	選択したファイルを別のフォルダに移動します。	削除	選択したファイルを削除します。
共有	選択したファイルを共有します。	/	/

Note

ファイルを長押しして、その他の操作を実行します。

7.1.2 Cloud Storage

クラウドストレージの内容を確認するには、ご自身のアカウントにログインしてください。

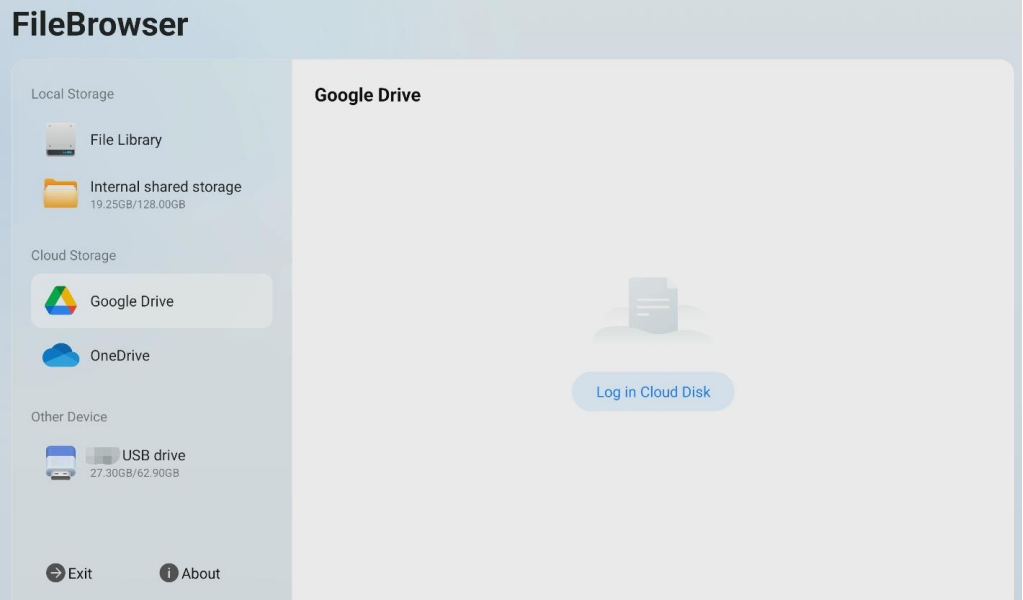


Figure 7-3クラウドストレージ

7.2 ブラウザ

デバイスをインターネットに接続し、**「ブラウザ」を**タップします。アドレスバーにURLを入力して、インターネット上のテキスト、画像、オーディオ、ビデオを表示します。

7.3 ホワイトボード

ホワイトボードは、タッチ入力、画像の挿入、コンテンツの共有などの機能を一体型で統合した編集ソフトウェアです。ユーザーは、タッチ入力、消去、ページ切り替え操作を行うために、さまざまな背景を持つボードを追加できます。画像のインポートや編集に対応しており、ホワイトボードのコンテンツが完成したら、ローカルに保存したり、メールで共有したりすることができます。

7.3.1 Toolbar Basic Operations

ツールバーを使用すると、ホワイトボード上で書き込み、消去、選択、元に戻す／やり直し、その他の操作を行うことができます。

Figure 7-4ツールバー

書き込み

書き込み機能は、ホワイトボード上に文字や図形を書くために使用します。ツールバーの「▲」をタップして、筆の種類、色、太さなどのパラメータを調整します。

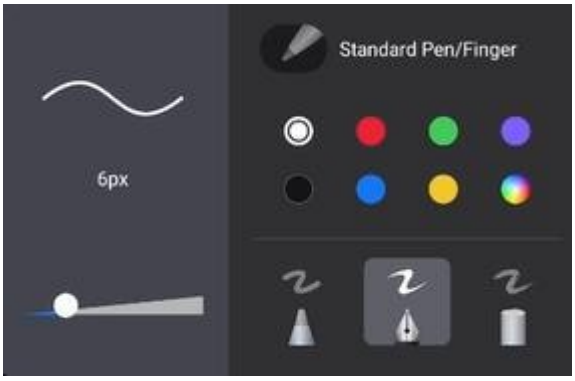


Figure 7-5 書き込みパラメータの設定

消去

消去機能は、ホワイトボードに書かれた内容を消去するために使用します。ツールバーの「 」をタップして、以下の操作を選択します：

- 部分消去： をタップし、消去したい領域上で消しゴムをタップしてドラッグすると、その範囲内の内容が消去されます。スライダーをスライドさせて消しゴムのサイズを調整できます。
- 円形消去： をタップし、削除したい領域を円を描くように囲みます。円内に含まれる軌跡上の内容が削除されます。
- すべて消去： をタップすると、現在のホワイトボードページ上の書き込み内容がすべて消去されます。
- ジェスチャー消去：手のひらや手の甲が画面に触れると、広範囲の消去操作を行うことができます。

円選択

ツール の をタップして、任意の形状の領域（ ）または長方形の領域（ ）を丸で囲み、その領域内のコンテンツを編集します。

- : 選択した領域内のコンテンツの色を均一に変更します。
- : 選択した領域内のコンテンツの色を均一に変更します。
- : 選択した領域内のコンテンツをロックします。領域を長押しするか、 をタップしてロックを解除します。
- : ブラウザで選択した領域を検索します。ポップアップウィンドウに関連する検索結果（画像またはウェブ）が表示されます。

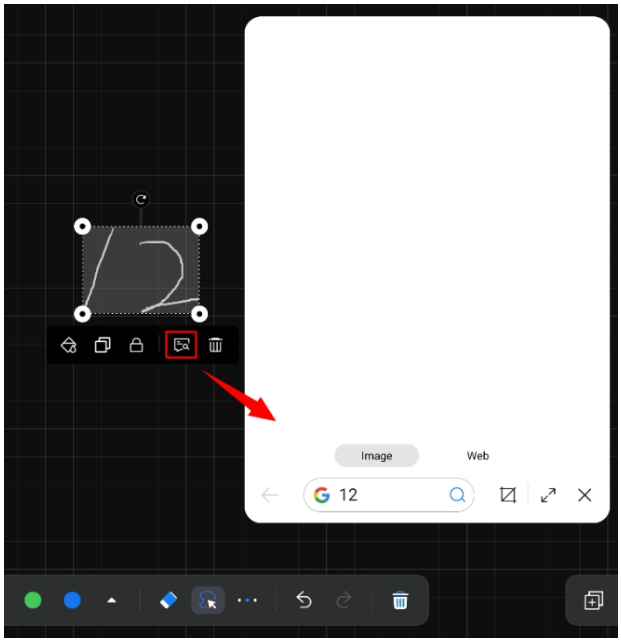


Figure 7-6 選択した領域を検索

- : 選択した領域内のコンテンツを削除します。

Note

- 選択した領域内のコンテンツのサイズ変更、移動、回転に対応しています。
- 選択範囲の外側をタップすると、範囲の選択が解除されます。

元に戻す／やり直し

誤って書き込みや消去をしてしまった場合、元に戻すツールを使用して操作を元に戻すことができます。

- : タップすると、直前の操作を元に戻します。
- : タップすると、前の操作をやり直します。

7.3.2 More Tools

ツールバーの「 」をタップすると、以下のツールが表示されます：

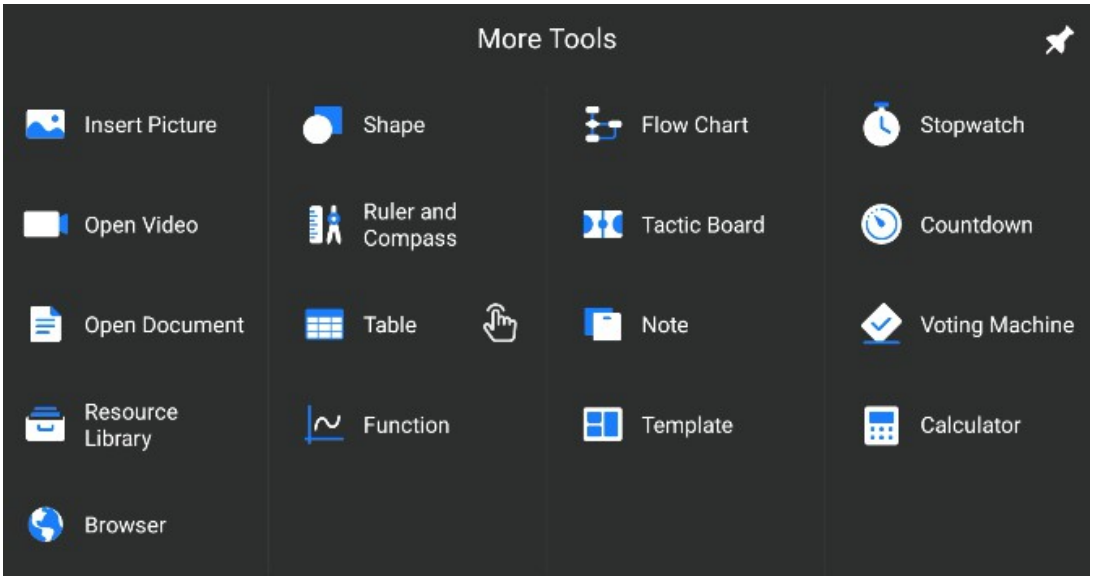


Figure 7-7 その他のツール

Table 7-3 ツールの説明

アイコン	名前	説明
	形状	2Dおよび3Dの図形を挿入します。
	定規およびコンパス	定規、分度器、直角定規、またはコンパスを使用します。ドラッグしてサイズや角度を調整します。
	表	● 表を挿入します。 ● 表を長押しして行や列を追加・削除します。 ● 表をドラッグして移動またはサイズ変更します； ●表をタップして、表内の文字の色を変更できます。 ● 「 」をタップし、「**Shape Recognition**」を有効にします。水平線や垂直線を描くと、表の認識がトリガーされます。
	関数	● 線形関数、2次関数、三角関数を挿入します。 ●式内の係数、定数項、正負の符号、正弦、余弦、正接関数を編集できます。 ● 「**OK**」をタップして関数のグラフを挿入します。グラフの移動、拡大・縮小、編集、削除を行うことができます。 をタップすると、グラフを元の位置にリセットできます。
	フローチャート	●さまざまな図形や線を選択して、ホワイトボード上にフローチャートを描くことができます。 ● 「 」をタップして、図形バーを固定します。

アイコン	名前	説明
	戦術ボード	タップしてバスケットボールの戦術ボードを作成します。
	メモ	メモを挿入します。メモの移動、サイズ変更、コピー、および色の変更に対応しています。
	テンプレート	● P.D.C.A、S.M.A.R.T、S.W.O.Tのテンプレートを挿入します。 ●テンプレートに直接書き込み、メモを挿入、SVG形式でエクスポート、またはテンプレートを削除することができます。
	ストップウォッチ	ストップウォッチを開きます。
	カウントダウン	カウントダウンを開きます。
	投票機	投票機を開く。
	電卓	電卓を開く。
	画像の挿入	画像を挿入した後、その画像を固定、サイズ変更、移動、回転、削除したり、その領域に書かれた内容の色を変更したりすることができます。
	ビデオを開く	ビデオファイルを再生します。
	ドキュメントを開く	PPT、PPTX、DOC、DOCX、およびPDF形式のドキュメントを開いて表示します。
	ライブラリ	タップして画像やビデオを検索し、挿入します。
	ブラウザ	ホワイトボードの横にブラウザを表示します。

Note

- 「 」をタップすると、サイドバーが表示されます。

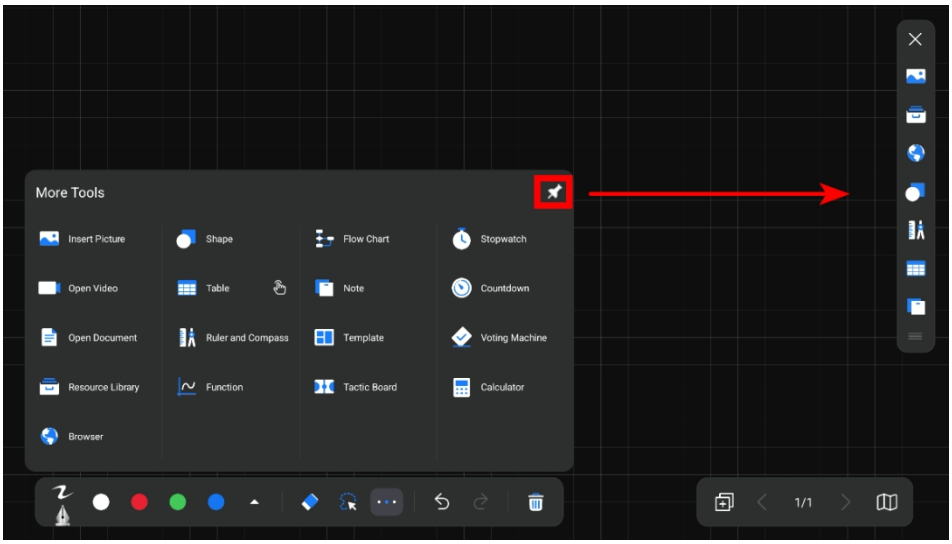


Figure 7-8 ツール サイドバー

- 図形や表は、元の境界線を越えて書き込むと自動的に拡大されます。

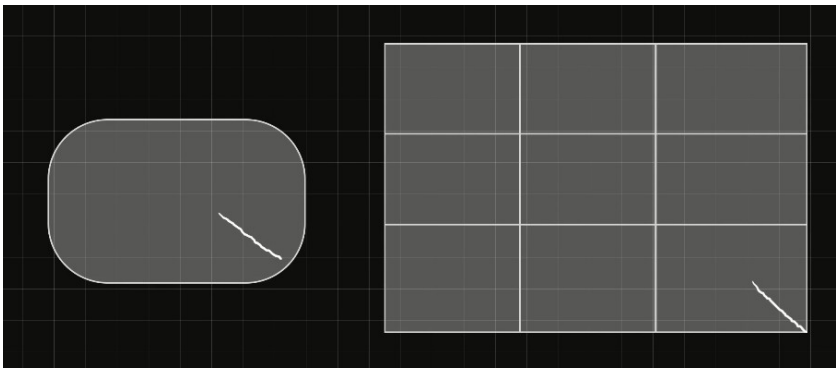


Figure 7-9 図形と表の拡大

- ライブラリと**ブラウザは**、ホワイトボードアプリケーションが全画面表示の場合にのみサポートされます。
- 機能は状況によって異なる場合があります。実際のページをご参照ください。

戦術ボード

1) タップ をタップして、バスケットボールまたはサッカーの戦術ボードを作成します。

Note

バスケットボールとサッカーの戦術ボードの機能は同じです。ここでは、例としてバスケットボールの戦術ボードを紹介します。

2) 「 」を動かして、選手のポジションを変更します。

3) 右下隅の「 」を有効にすると、選手の上に線を引くことができます。線の種類が提示されるので、その中から選択してください。

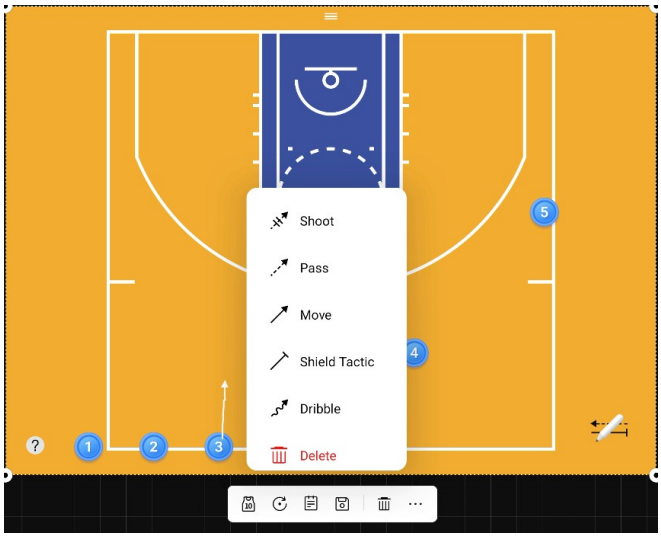


Figure 7-10 線の種類を選択

4) 「 」をタップして、選手の人数を選択します。「 」をタップして、戦術を選択します。

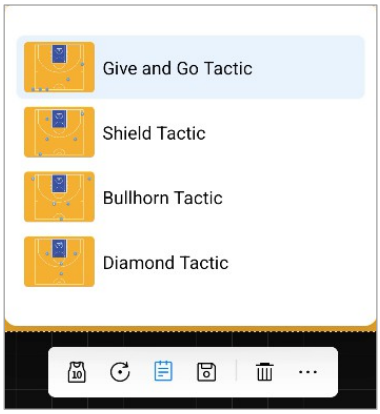


Figure 7-11 戦術の選択

Note

選手の位置を変更した場合は、「 」をタップして位置をリセットしてください。

5) ボード上に独自の戦術を描き、 をタップして戦術に名前を付けて保存します。保存した独自の戦術は、 で確認できます。

6) 左下隅の「 」をタップすると、機能ガイドが表示されます。

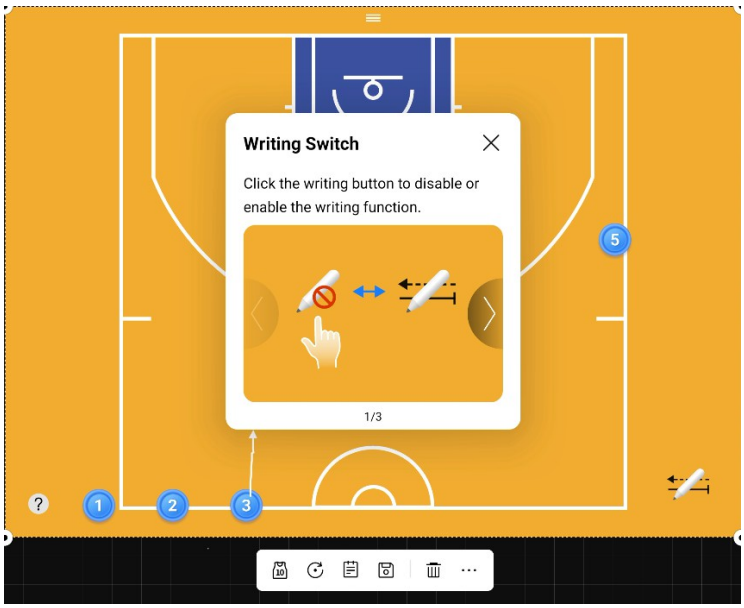


Figure 7-12 機能ガイド

7) 「 ··· 」をタップして、ホワイトボード上のレイヤーの位置を変更します。

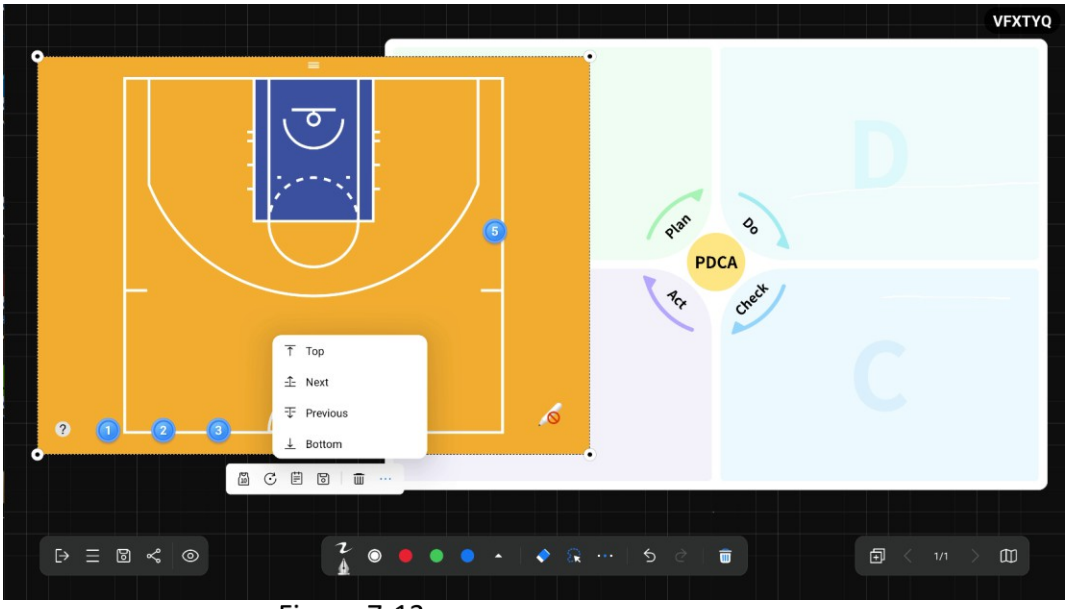


Figure 7-13 レイヤーの位置を変更する

ドキュメントを開く

PDF 形式のホワイトボードドキュメントを挿入して、編集することができます。

手順

Step 1 現在のホワイトボードページを PDF 形式で保存すると、ファイルは自動的に FileBrowser に保存されます。

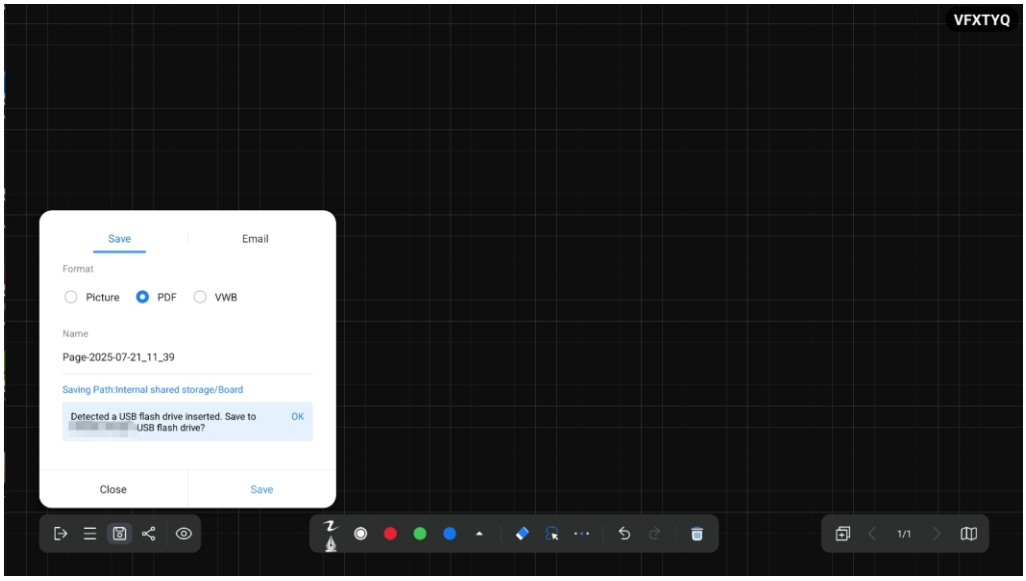
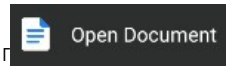


Figure 7-14 PDF形式で保存

Step 2 「 」→「 

」をタップし、「**File Library**」を選択します。「**Board**」をタップすると、保存されたホワイトボードドキュメントが表示されます。

Figure 7-15 ドキュメントを開く

Step 3 挿入したいドキュメントをタップすると、保存されたホワイトボードページ上で編集できます。

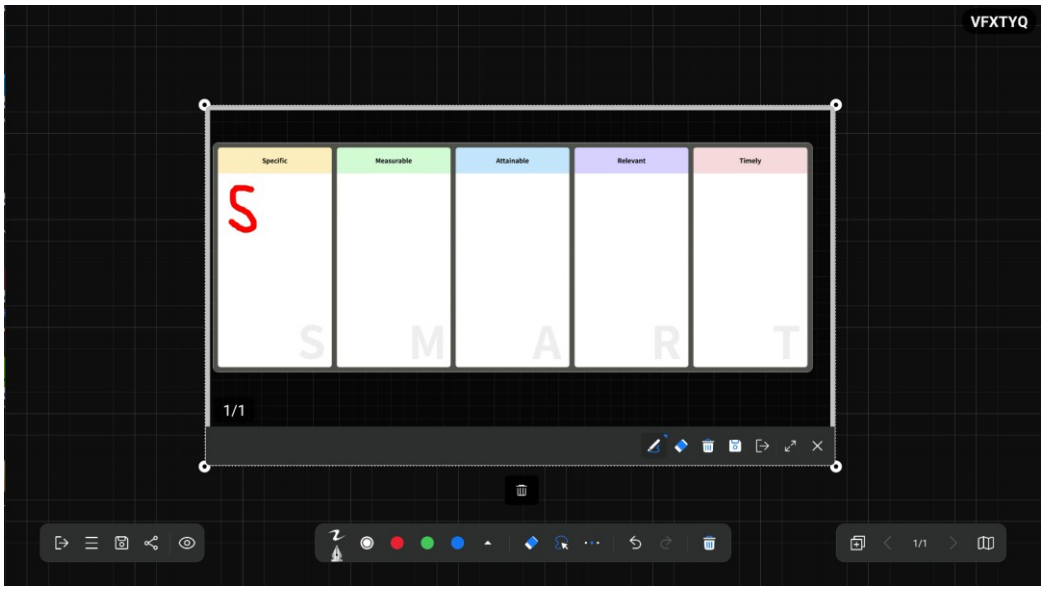


Figure 7-16 ドキュメントの編集

Table 7-4 挿入されたドキュメントの機能

アイコン	説明
	タップしてその他の編集オプションを表示し、ドキュメントに書き込みを行います。
	内容を消去します。
	コンテンツを削除します。
	新しいドキュメントとして保存します。
	編集を終了します。
	ドキュメントを展開します。
	ドキュメントを閉じる。ドキュメントを削除する。
	ドキュメントを削除します。
1/1	左側のサムネイルを探します。サムネイルを表示するか、ページ番号を表示するかを選択できます。

7.3.3 Manage Whiteboard

新しいホワイトボードを作成したり、ホワイトボードを切り替えたり、ホワイトボードを削除したりすることができます。

Table 7-5 機能の説明

機能	説明
ホワイトボードの追加	右下の「 」をタップして、ホワイトボードページを追加します。
ホワイトボードを切り替える	「 」または「 」をタップして、ホワイトボードのページを切り替えます。
ホワイトボードのドラッグ	1つのホワイトボードは無限に広いため、5本の指でホワイトボードページを上下左右にドラッグして、書き込みスペースを拡張できます。
ホワイトボードの表示	ページ番号エリアの「1/8」をタップすると、ホワイトボードページのサムネイルが表示されます。サムネイルを上下にスワイプし、ページをタップすると、そのページにジャンプします。
ホワイトボードを削除	ページ番号エリアの「1/8」をタップし、ページの右下隅にある「 」をタップすると、そのページを削除できます。
グローバルナビゲーション	「 」をタップしてグローバルナビゲーションを開きます。ポップアップウィンドウ内の青いボックスをドラッグして、ホワイトボードの他のエリアに移動します。

Note

ホワイトボードを閉じると、すべての情報がリセットされます。

7.3.4 Save Whiteboard

ホワイトボードの内容が完成したら、そのページをデバイスにローカル保存して参照用として残したり、他のユーザーと共有したりすることができます。

手順

Step 1 ホワイトボードの左下にある「」をタップします。

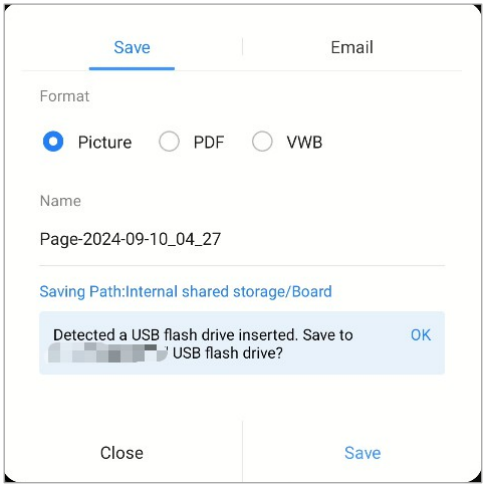


Figure 7-17 ホワイトボードの保存

Step 2 形式を選択します。

Note

ボードは、PNG 形式の画像、PDF 形式のドキュメント、または編集可能な VWB 形式のファイルとして保存できます。

Step 3 （オプション）ボードの名前を編集します。Step 4 [**保存**] をタップします。

7.3.5 Share Whiteboard

ユーザーは、EメールやQRコードを介して、ホワイトボードを他のユーザーと共有できます。

メールで共有

ホワイトボードの左下にある [] をタップし、**[Email]** を選択します。

Note

開始する前に、メールサーバーが設定されていることを確認してください。

QR コードによる共有

左下の「」をタップすると、同じ LAN 上のモバイル端末からコードをスキャンして、ホワイトボードのコンテンツをダウンロードできます。

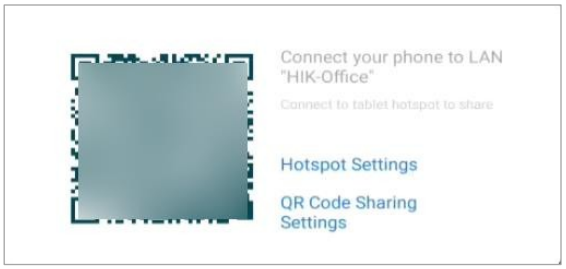


Figure 7-18 QRコードで共有

7.3.6 More Functions

ホワイトボードの左下隅にある「」をタップすると、画面分割での書き込みや 2 色での書き込みなどの機能を利用できます。

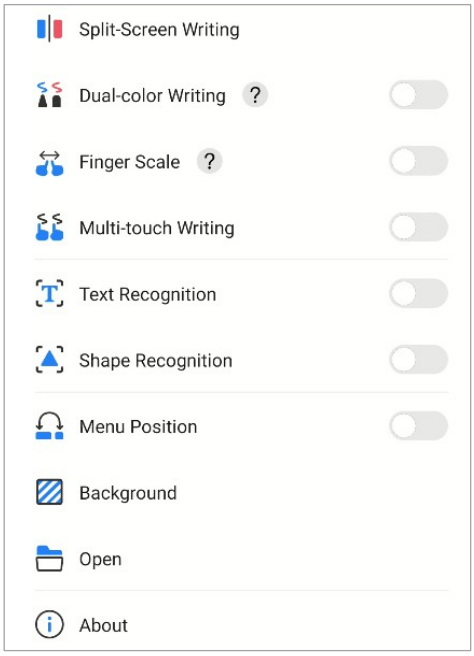


Figure 7-19 その他の機能

画面分割での書き込み

分割画面でのホワイトボードへの同時書き込みに対応しています。

- 「」または「」をタップして、2つまたは3つの画面を切り替えます。
- 「」をタップすると、分割画面での書き込みモードを終了します。

Note

分割画面の数を変更したり、分割画面での書き込みを終了したりすると、現在の内容は保存されません。

2色書き

有効にすると、書き込みペンの先端と尾部に、それぞれ異なる色を選択して書き込みを行うことができます。

Note

- ストロークサポートを長押しして、ペンの閾値を調整します。
- ? をタップすると、機能ガイドを表示できます。

指での拡大・縮小

有効にすると、2 本の指を使ってページの拡大・縮小を行うことができます。 ? をタップすると、機能ガイドが表示されます。

マルチタッチ書き込み

有効にすると、ホワイトボードはマルチフィンガータッチに対応し、複数の指で同時にホワイトボードを編集できるようになります。

テキスト認識

有効にすると、ホワイトボードは手書きのテキストを認識し、通常のテキストに修正することができます。

Note

「マルチタッチ入力」と「文字認識」は同時に有効にすることはできません。

図形認識

有効にすると、ホワイトボードは描かれた図形を認識し、通常の図形に修正することができます。

Note

- 認識可能な図形には、円、三角形、四角形、直線などがあります。
- テキスト認識と図形認識は、同時に有効にすることはできません。

メニューの位置

この機能を有効にすると、ホワイトボードの左側にあるメニューと右側にあるページ番号の位置が入れ替わり、機能アイコンやメニューに簡単にアクセスできるようになります。

背景

ホワイトボードの背景や陰影を設定し、必要に応じてホワイトボードの背景スタイルをカスタマイズすることができます。

開く

VWB形式で保存されたホワイトボードファイルを再度開いて編集します。

背景ホワイトボードの背景や陰影を設定し、必要に応じてホワイトボードの背景スタイルをカスタマイズできます。開

現在のバージョンやオープンソース契約などを表示します。

設定の更新

手順

Step 1 **[バージョン情報]** → **[更新設定]** にGoします。

Step 2 (オプション) **「更新の確認」を**有効にします。新しいバージョンが検出されると、Whiteboard を終了する際に、ソフトウェアを更新するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。

Step 3 (オプション) **「自動更新」**を有効にします。ソフトウェアが自動的に更新されます。

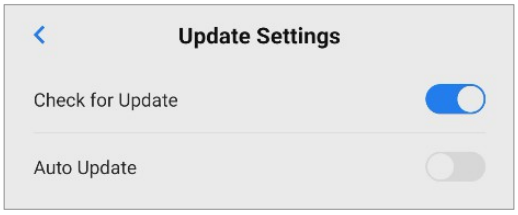


Figure 7-20 更新設定

ツールバーを非表示にする

左下の「 」をタップすると、ツールバーが非表示になります。「 」をタップすると、ツールバーが表示されます。

7.4 WonderCastServer

PCやスマートフォンの画面をインタラクティブフラットパネルにミラーリングしたり、PCやスマートフォンからフラットパネルを操作したりできます。WonderCastServerの詳細については、以下のQRコードをスキャンしてください。

Figure 7-21 WonderCastServer

7.5 WonderSeminar

WonderSeminarは、最大8台のデバイスを同時にグループ接続できるため、シームレスなコラボレーションを実現します。この革新的なソリューションにより、デバイスからのコンテンツ配信、
グループでの比較、権限制御などが可能になり、さまざまな業務シーンに最適です。WonderSeminarは、マルチスクリーンによる教室でのディスカッションに最適であり、複数の会議スペースを連携させてプレゼンテーションを同期させることで、会議室の接続性を向上させます。

手順

Step 1 **WonderSeminar**を開き、まずお使いのデバイスのグループ役割を選択します。その後、「**OK**」**を**タップします。

Note

以下の例では、管理者デバイスの操作手順を示します。

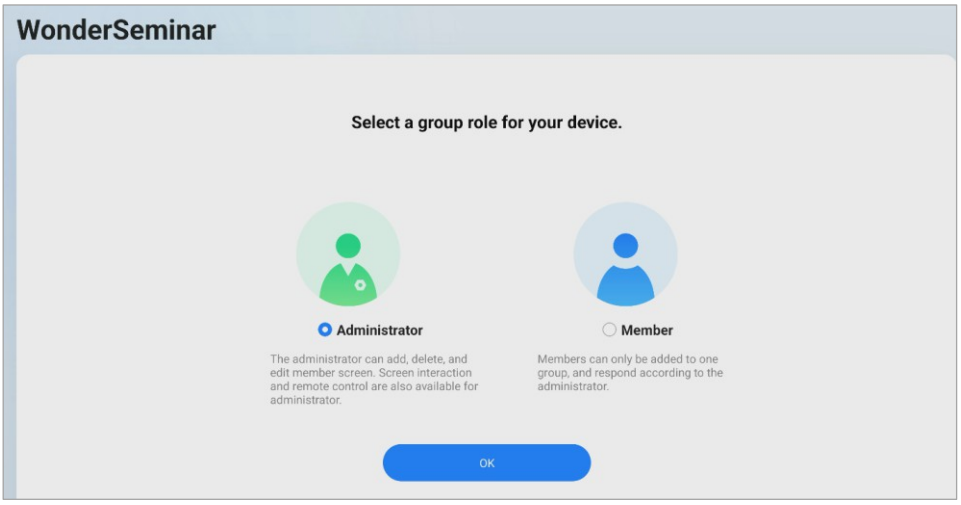
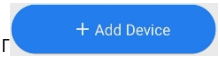


Figure 7-22 グループロールの選択

Step 2 「 

」をタップしてデバイスを追加すると、右側に検出されたデバイスが表示されます。一部のデバイスが一時的に検出されない場合は、それらのデバイスのパスコードを入力して追加してください。

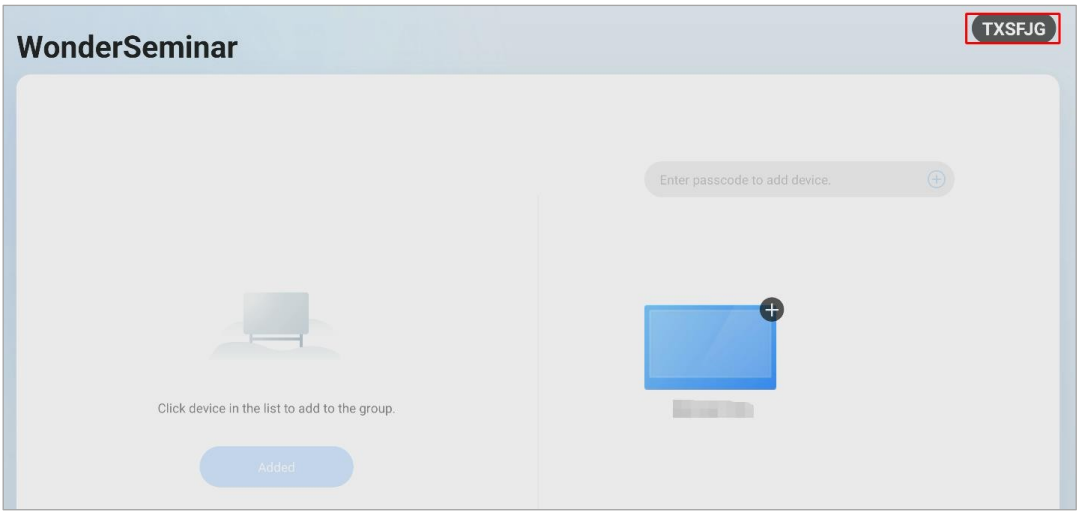


Figure 7-23 デバイスの追加

Step 3 「 」をタップして、グループにデバイスを追加します。「 Added 」をタップすると、グループに追加されたすべてのデバイスを確認できます。

Figure 7-24 追加されたデバイス

Step 4 「 Enable WonderSeminar 」をタップすると、その他の機能が表示されます。

7.5.1 Broadcast and Call Screens

ブロードキャスト

「 」→「 Broadcast to All Devices 」をタップすると、管理者端末の画面がすべてのメンバー端末に配信されていることが確認できます。

Note

たとえば、教室では、これで生徒のすべての端末に、教師の端末での操作が表示されるようになります。

画面共有

をタッ Edit Broadcast Image をタップすると、最大 4 台のデバイスをドラッグして、その画像を管理者デバイスに表示させることができます。

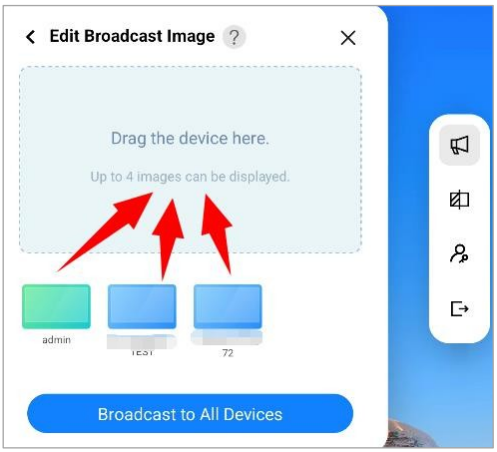


Figure 7-25 デバイスのドラッグ

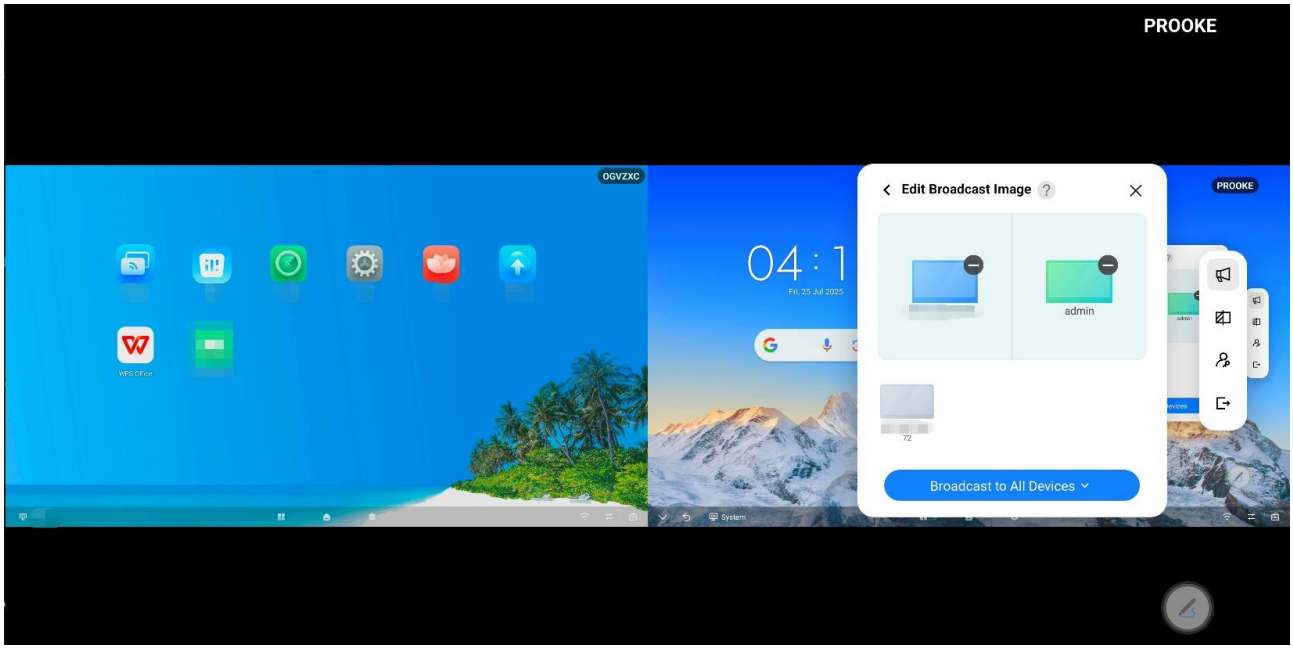


Figure 7-26 管理者端末での「Call Screens」

画面を呼び出した後も、管理者デバイスから他のメンバーデバイスへ画像を配信し続けることができます：

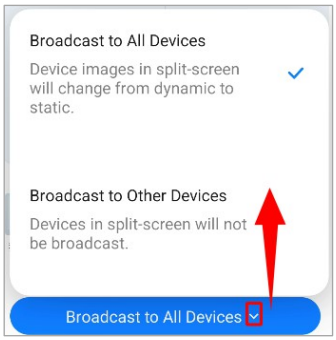


Figure 7-27 デバイスへのブロードキャスト

● すべてのデバイスへの配信：すべてのメンバーデバイスが管理者デバイスからの画像を表示できます。

● 他のデバイスへの配信：管理デバイスで呼び出されたデバイスを除き、その他のメンバーデバイスが管理デバイスからの画像を表示します。

7.5.2 Group Comparing

グループ比較モードでは、別の画面に最大4つの画像を表示できます。

手順

Step 1「 」をタップして、グループ比較ページに入ります。

Step 2 左側のリストからデバイスを選択し、その画面に表示したいデバイスを最大 4 台までドラッグします。

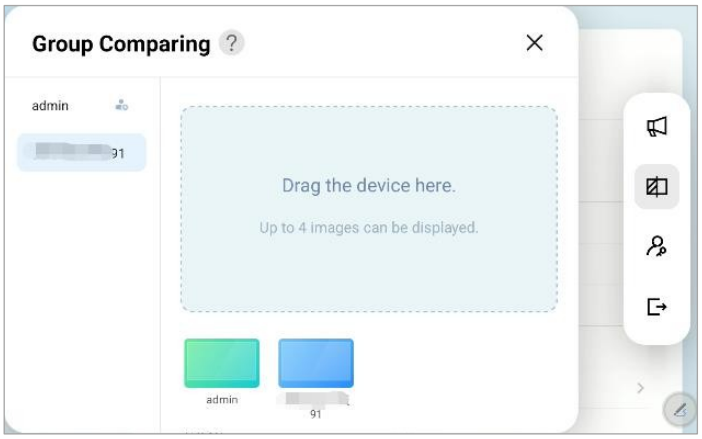


Figure 7-28 デバイスのドラッグ

Step 3（オプション）別のデバイスを選択し、そのデバイスに表示するデバイスを最大 4 つまでドラッグします。

左側のリストにあるどのデバイスでも、任意のデバイスの画像を表示できます。

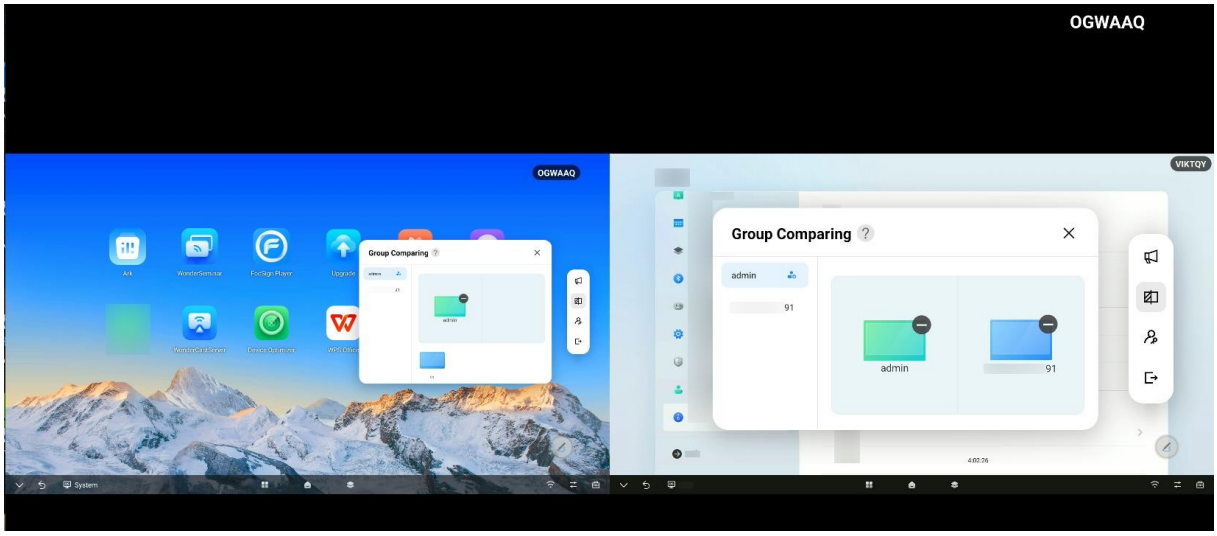


Figure 7-29 任意のデバイスを選択して、任意のデバイスの画像を表示する

7.5.3 Permission Control

「 」をタップして、権限制御ページに入ります。

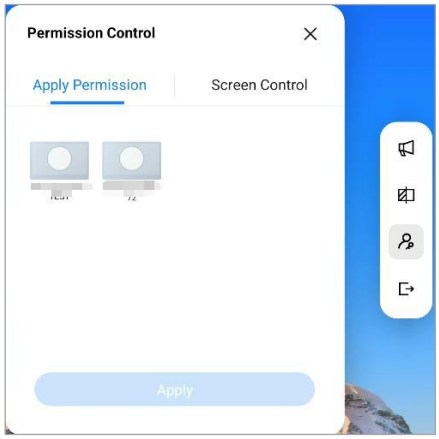


Figure 7-30 権限管理

● 権限の適用：「Any Device」をタップし、**「Apply」を**タップします。メンバーデバイスには一時的な管理者ステータスが付与され、管理者デバイスと同じ権限が与えられます。

● 画面制御：**「画面制御」を**タップすると、管理者はメンバーデバイスの画面をすばやくオン/オフに切り替えることができます。

7.5.4 Other Operations

終了

タップ または Exit をタップして、WonderSeminarを終了します。

設定

メインページの左下隅にある「**設定**」をタップして、デバイスのグループ役割を変更します。

バージョン情報

メインページの左下隅にある**「バージョン情報」**をタップすると、ソフトウェアのバージョンやオープンソースソフトウェアのライセンスなどを確認できます。

7.6 システムプリインストールアプリ

以下の表は、システムにプリインストールされているアプリケーションの概要を示しています。詳細については、各アプリケーションのヘルプドキュメントを参照してください。

Note

システムにプリインストールされているアプリケーションは、デバイスの種類によって異なります。

Table 7-6 システムにプリインストールされているアプリケーションの紹介

アプリケーション	概要
ホワイトボード	描画や書き込みに使用します。コンテンツの保存、移動、拡大、縮小、削除、ダウンロードが可能です。
ファイルブラウザ	ファイルの管理。
ブラウザ	デバイスがネットワークに接続されると、ブラウザを通じてインターネット上の情報を閲覧できるようになります。
ギャラリー	SDカードやUSBメモリ内の写真を閲覧するために使用します。
アップグレード	リモートアップグレード、ローカルアップグレード、およびローカルコンポーネントのアップグレードが可能です。
WonderCastServer	フラットパネル、携帯電話、またはPCを接続して画面ミラーリングを行うためのアプリケーションです。
WonderCastServerフラットパネル、携帯電話、PCを接続して画面ミラーリングを行うためのアプリケーションです。	グループデバイスの管理に使用されます。
WonderCastServerフラットパネル、携帯電話、PCを接続して画面ミラーリングを行うためのアプリケーションです。	Google DeepMindが開発した高性能なAIモデルで、マルチモーダル推論と高度な自然言語理解を目的として設計されています。
Google Playストア	デバイスがアプリ、ゲーム、書籍、映画、その他のエンターテインメントコンテンツを検索・ダウンロードするためのマーケットプレイスです。
Google Maps	世界中の地域や場所に関する詳細な情報を提供します。
Googleフォト	写真やビデオのライブラリ全体を無料でバックアップできるサービスです。

Google ドライブ	オンラインでファイルをアップロード、同期、共有できるクラウドストレージサービスです。

Google TV	ストリーミングアプリ、ライブテレビ、パーソナライズされたおすすめ機能を、1つの統一されたインターフェースに統合したプラットフォームです。
Google Chrome	Googleが開発した無料のウェブブラウザーで、インターネット上のウェブページにアクセスするために使用されます。
Gmail	Googleが提供する無料サービスで、ユーザーはインターネットを介して電子メールの送受信を行うことができます。
Google	Googleが提供する検索エンジンです。
Google Meet	ビデオ会議サービスです。
YouTube	ビデオを共有するためのソーシャルメディアプラットフォームおよびウェブサイトです。
YouTube Music	Googleが提供する音楽ストリーミングサービスです。
Googleカレンダー	Googleが開発した時間管理およびスケジュール管理ツールです。

第8章 付録A よくある質問

質問	原因と解決策
画面に結露が頻繁に発生するのはなぜですか？	保護のため、外側の画面には強化ガラスが取り付けられています。画面と強化ガラスの間には、空気の対流のための隙間があります。主な原因は、画面と外部との間に温度差があることです。高温の空気が、温度の低いガラス表面で凝縮し、結露が発生します。結露はデバイスの起動後に蒸発するため、デバイスの使用には影響しません。
接続後にノートパソコンから音が出ないのはなぜですか？	オーディオケーブルのみを接続している場合、オーディオ出力と画像出力の両方が利用できなくなります。 ● HDMIケーブルを接続してください。 ● Windowsでそのデバイスをオーディオ出力デバイスとして選択してください。
しばらく使用すると画面が熱くなるのはなぜですか？	画面の温度上昇は放熱によるものであり、まったく正常な現象です。当社の放熱設計は業界をリードしており、国家の健康基準に準拠した業界標準の策定者でもあります。
長時間使用すると目に悪影響がありますか？	人間の目がちらつきを認識できる周波数は50Hzです。周波数が50Hzを下回ると、ちらつきが認識され、眼筋の疲労を引き起こします。当製品は60HzのLCD画面を採用しており、人間の目には画面のちらつきが認識されません。同種の他製品と比較して、目の疲れを大幅に軽減することができます。
画面に画像が表示されず、デバイスから音も出ないのはなぜですか？	● 電源ケーブルが接続されているか確認してください。 ● コンセントが正常に機能しているか確認してください。 ● 電源スイッチが入っているか確認してください。
なぜ本体のHDMIチャンネルに入力信号がないのですか？	● 入力ソースが正常に動作しているか確認してください。 ● HDMIインターフェースまたはケーブルを交換してください。 ● PCにアクセスできる場合は、PCでHDMI出力を設定してください。
有線ネットワークが不安定なのはなぜですか？	ネットワークの自動検出オプションを無効にしてみてください。

「Far, Go Further」をご覧ください